

比企郡市

人権に関する意識調査

報 告 書

平成 2 7 年 3 月

東松山市・滑川町・嵐山町・小川町
川島町・吉見町・鳩山町・ときがわ町

目 次

第1章 調査の概要..... 1

1	調査目的.....	3
2	実施主体.....	3
3	調査概要.....	3
4	調査項目.....	3
5	回収結果.....	3
6	回答者の基本属性.....	4
7	報告書の見方（留意点）.....	5
8	その他.....	5

第2章 調査結果の分析..... 7

1	人権全般に対する意識.....	9
2	女性の人権に対する意識.....	29
3	子どもの人権に対する意識.....	37
4	高齢者の人権に対する意識.....	44
5	障害のある人の人権に対する意識.....	52
6	同和問題（部落差別）に対する意識.....	60
7	外国人の人権に対する意識.....	74

第 1 章 調査の概要

1 調査目的

この調査は、人権問題に関する住民の意識の現状を把握し、「一人ひとりの人権が尊重される社会の実現」を目指した施策を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

2 実施主体

比企郡市8市町

(東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町)

3 調査概要

- (1) 調査地域 東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町
- (2) 調査対象 各市町内に在住する満20歳以上の男女
(階層 20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上)
- (3) 標本数 900人(市:200人、町:100人)
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの層化無作為抽出(平成26年10月1日現在)
※階層ごとの標本数及び男女の割合については均等とする。
- (5) 調査方法 郵送による無記名回答
- (6) 調査期間 平成26年10月15日(水)～11月7日(金)

4 調査項目

- (1) 属性(性別、年代)
- (2) 人権全般に対する意識について
- (3) 女性の人権について
- (4) 子どもの人権について
- (5) 高齢者の人権について
- (6) 障害のある人の人権について
- (7) 同和問題(部落差別)について
- (8) 外国人の人権について
- (9) 人権問題についての意見

5 回収結果

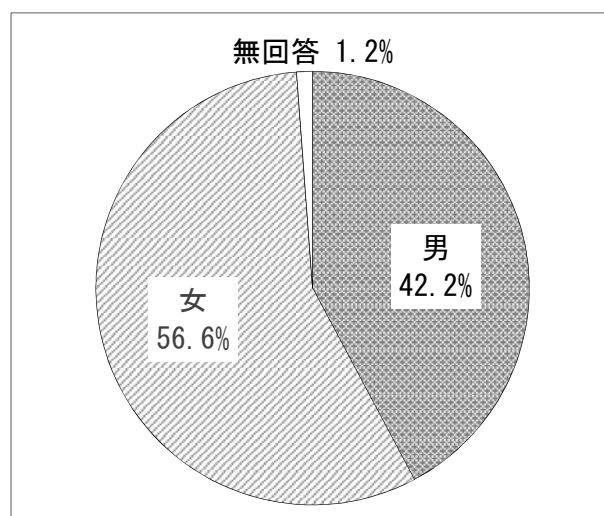
- (1) 配布人数 900人
- (2) 回答者数 424人
- (3) 回答率 47.1%

6 回答者の基本属性

【性別】

区 分	回答数	構成比
1 男	179	42.2%
2 女	240	56.6%
無回答	5	1.2%

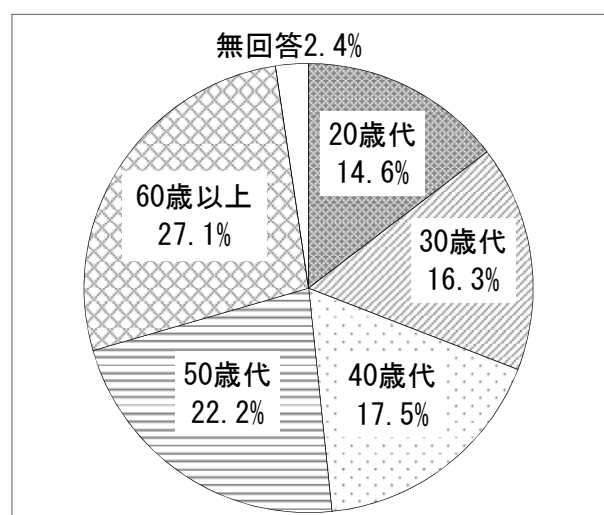
回答者数 424 人



【年代別】

区 分	回答数	構成比
1 20 歳代	62	14.6%
2 30 歳代	69	16.3%
3 40 歳代	74	17.5%
4 50 歳代	94	22.2%
5 60 歳以上	115	27.1%
無回答	10	2.4%

回答者数 424 人



【性別・年代別】

区 分	総計		男		女		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20 歳代	62	14.6%	25	14.0%	37	15.4%	0	0.0%
30 歳代	69	16.3%	25	14.0%	44	18.3%	0	0.0%
40 歳代	74	17.5%	25	14.0%	49	20.4%	0	0.0%
50 歳代	94	22.2%	40	22.3%	54	22.5%	0	0.0%
60 歳以上	115	27.1%	61	34.1%	53	22.1%	1	20.0%
無回答	10	2.4%	3	1.7%	3	1.3%	4	80.0%
合計	424	100.0%	179	100.0%	240	100.0%	5	100.0%

7 報告書の見方（留意点）

（1）調査結果の分析区分について

調査結果は、次の区分により分析しています。

【全体】 特定の区分を分けずに回答者全員424人を対象に分析しています。

【性別】 回答者の中で性別が確認できた男性179人、女性240人（合計419人）を対象に男女ごとに分けて傾向を分析しています。

【年代別】 回答者の中で年代が確認できた20歳代62人、30歳代69人、40歳代74人、50歳代94人、60歳以上115人（合計414人）を対象に年代ごとに分けて傾向を分析しています。

表中の色抜き部分（）については、分析時の主な評価箇所となっています。

（2）回答割合の算出方法について

・「○は一つ」としている設問については、【全体】【性別】【年代別】ごとの回答者数を分母とし、それぞれの選択肢を選んだ人数の割合を算出しています。（表、グラフの単位を人にしています。）

・「該当するものすべてに○」など、一人の回答者が複数の項目を選択する設問については、その設問の回答者数を分母とし、それぞれの選択肢の回答数の割合を算出しています。

（3）端数について

割合を求めたときの端数については、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、割合の合計が100%にならない場合があります。

8 その他

問19の「意見欄」については、紙面の都合等により報告書には載せてありません。今後の人権問題に対する取り組みのための参考とさせていただきます。

第 2 章 調査結果の分析

1 人権全般に対する意識

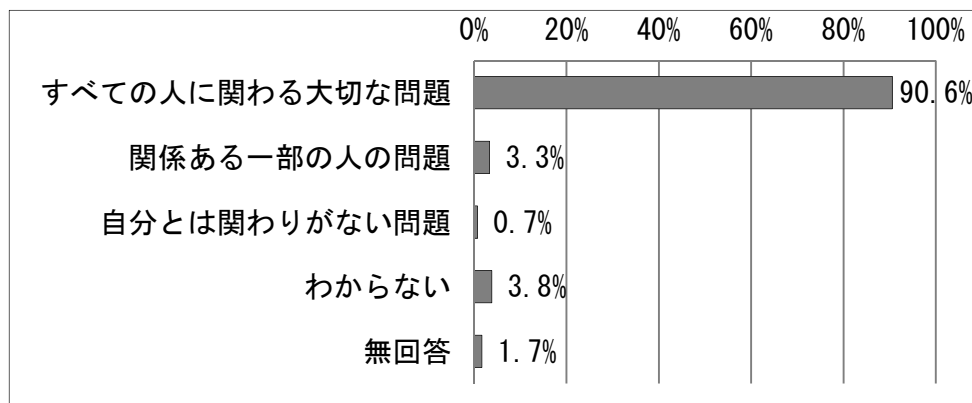
問1 あなたは、人権について、どのように考えていますか。(○は1つ)

【全体】

「すべての人に関わる大切な問題」が90%を超え、最も高くなっている。

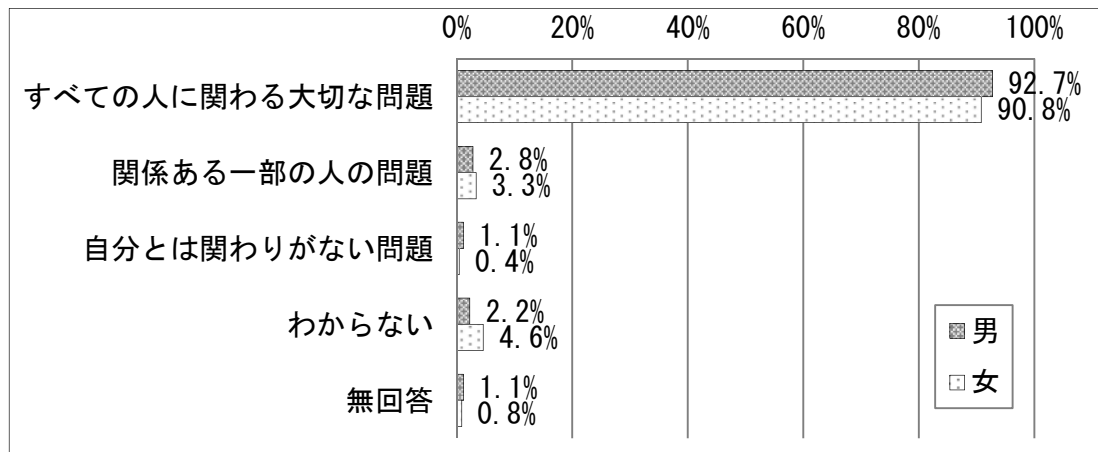
区 分	回答数	構成比
1 すべての人に関わる大切な問題	384	90.6%
2 関係ある一部の人の問題	14	3.3%
3 自分とは関わりがない問題	3	0.7%
4 わからない	16	3.8%
無回答	7	1.7%

回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「すべての人に関わる大切な問題」が90%を超え、最も高くなっている。



第2章 調査結果の分析

【年代別】

各年代において「すべての人に関わる大切な問題」が85%を超え、最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
すべての人に関わる大切な問題	90.3%	92.8%	95.9%	94.7%	86.1%
関係ある一部の人の問題	4.8%	2.9%	2.7%	2.1%	3.5%
自分とは関わりがない問題	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.7%
わからない	4.8%	2.9%	1.4%	3.2%	4.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%

(注) 部分：主な評価箇所

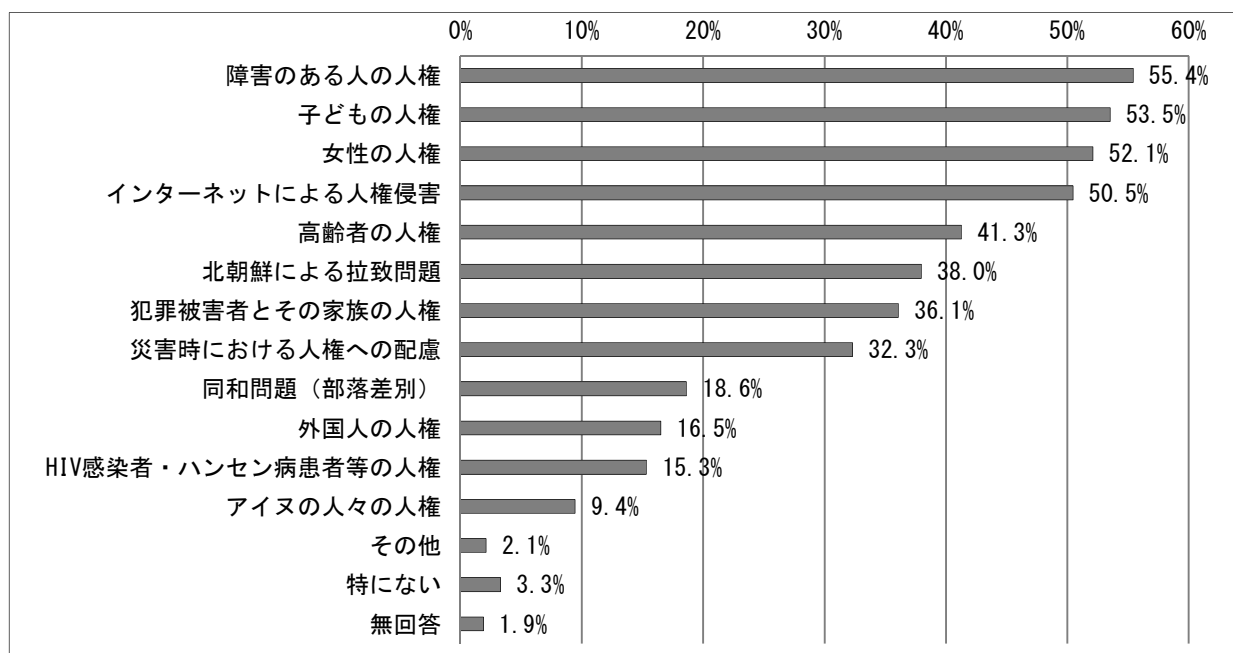
問2 いまの日本の社会には様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

関心のある人権問題は、「障害のある人の人権」が55.4%で最も高く、次いで「子どもの人権」が53.5%、「女性の人権」が52.1%となっている。

区 分	回答数	構成比
1 女性の人権	221	52.1%
2 子どもの人権	227	53.5%
3 高齢者の人権	175	41.3%
4 障害のある人の人権	235	55.4%
5 同和問題（部落差別）	79	18.6%
6 外国人の人権	70	16.5%
7 HIV感染者・ハンセン病患者等の人権	65	15.3%
8 犯罪被害者とその家族の人権	153	36.1%
9 アイヌの人々の人権	40	9.4%
10 インターネットによる人権侵害	214	50.5%
11 北朝鮮による拉致問題	161	38.0%
12 災害時における人権への配慮	137	32.3%
13 その他	9	2.1%
14 特にない	14	3.3%
無回答	8	1.9%

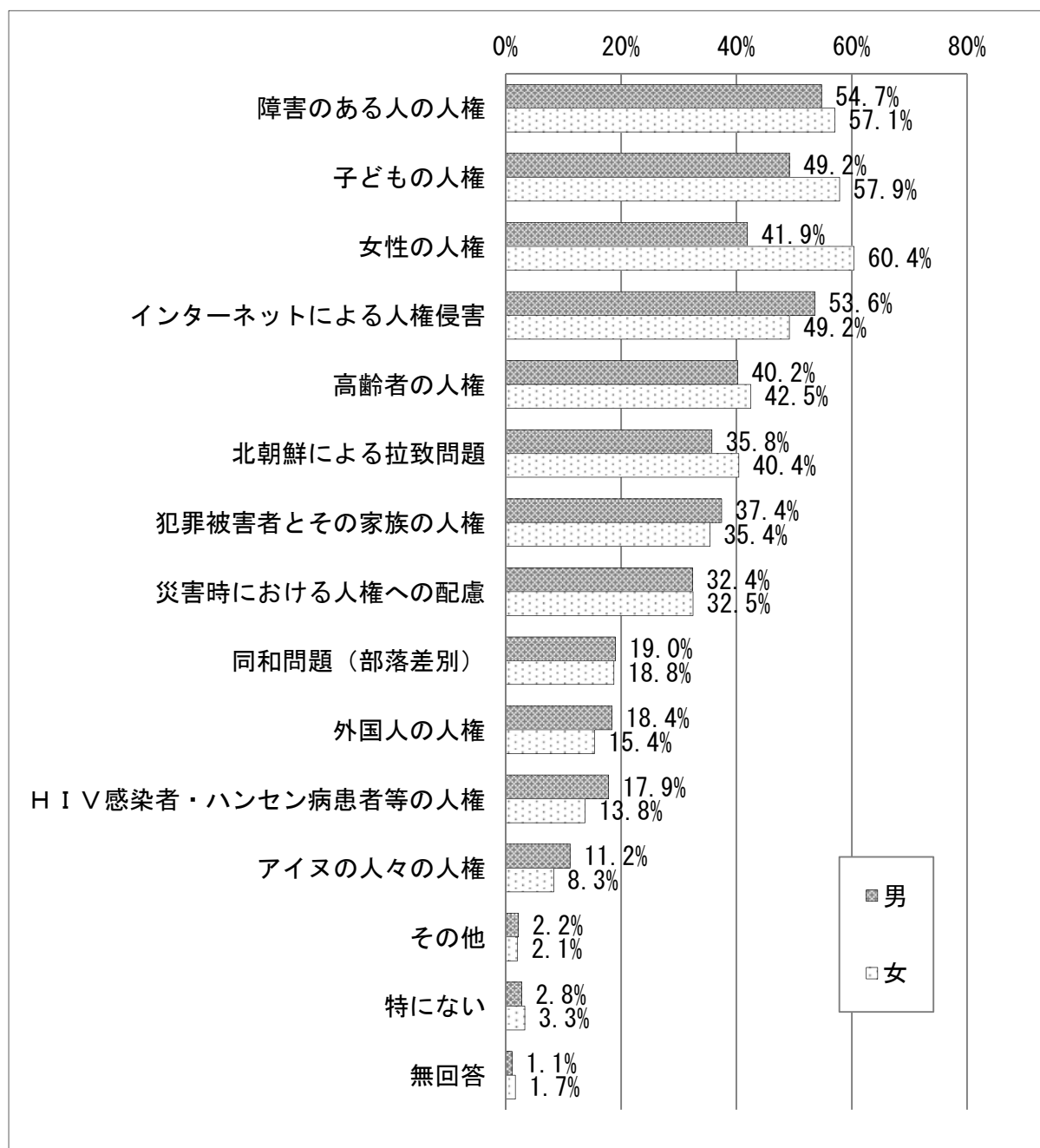
回答者数 424 人



【性別】

男性では「障害のある人の人権」が54.7%で最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」が53.6%、「子どもの人権」が49.2%となっている。

女性では「女性の人権」が60.4%で最も高く、次いで「子どもの人権」が57.9%、「障害のある人の人権」が57.1%となっている。



【年代別】

20歳代では「インターネットによる人権侵害」、30歳代では「女性の人権」と「インターネットによる人権侵害」、40歳代では「子どもの人権」、50歳代では「障害のある人の人権」、60歳以上では「高齢者の人権」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
障害のある人の人権	54.8%	53.6%	48.6%	61.7%	58.3%
子どもの人権	50.0%	53.6%	59.5%	59.6%	49.6%
女性の人権	50.0%	62.3%	56.8%	51.1%	47.0%
インターネットによる人権侵害	59.7%	62.3%	54.1%	58.5%	31.3%
高齢者の人権	27.4%	34.8%	23.0%	50.0%	60.0%
北朝鮮による拉致問題	21.0%	30.4%	37.8%	45.7%	47.8%
犯罪被害者とその家族の人権	30.6%	37.7%	36.5%	44.7%	31.3%
災害時における人権への配慮	27.4%	36.2%	24.3%	34.0%	36.5%
同和問題（部落差別）	21.0%	14.5%	16.2%	21.3%	19.1%
外国人の人権	21.0%	17.4%	13.5%	20.2%	13.0%
HIV 感染者・ハンセン病患者等の人権	14.5%	10.1%	12.2%	20.2%	16.5%
アイヌの人々の人権	8.1%	7.2%	8.1%	11.7%	11.3%
その他	0.0%	2.9%	4.1%	3.2%	0.9%
特にない	4.8%	1.4%	0.0%	4.3%	4.3%
無回答	0.0%	1.4%	1.4%	0.0%	2.6%

(注) 部分：主な評価箇所

第2章 調査結果の分析

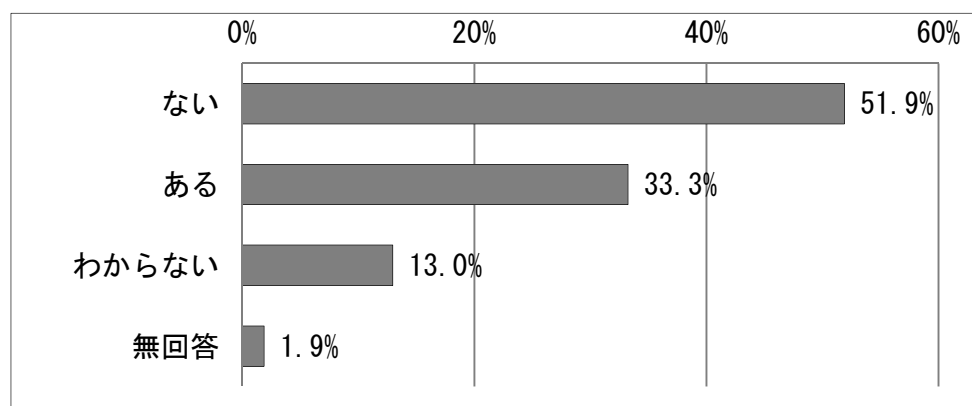
問3 あなたは、日常生活の中で、あなた自身、またはあなたの身近な人（家族・友人など）の人権が侵害されたと感じたことがありますか。（○は1つ）

【全体】

人権が侵害されたと感じた経験は、33.3%となっている。

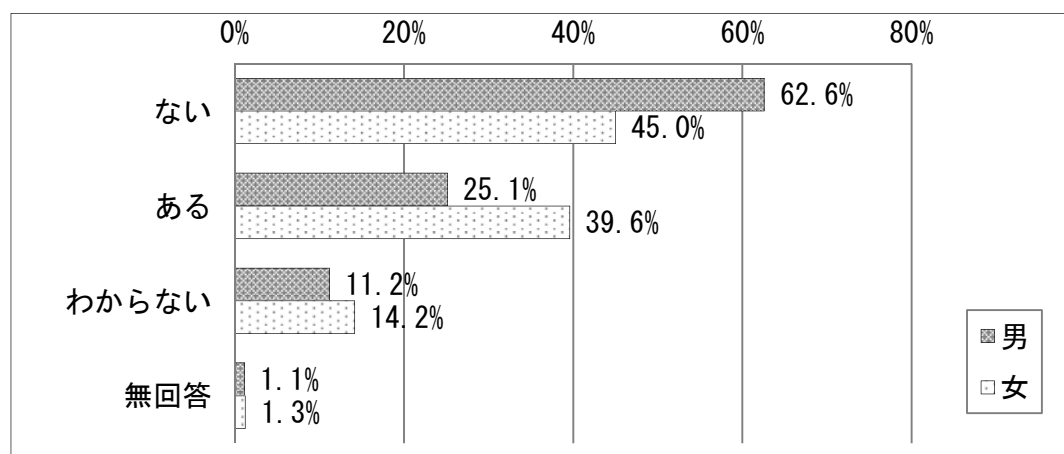
区 分	回答数	構成比
1 ある	141	33.3%
2 ない	220	51.9%
3 わからない	55	13.0%
無回答	8	1.9%

回答者数 424 人



【性別】

人権が侵害されたと感じた経験は、女性の割合（39.6%）が男性（25.1%）より14.5ポイント高くなっている。



【年代別】

人権が侵害されたと感じた経験は、30歳代、40歳代、50歳代で35%を超え、高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
ない	46.8%	43.5%	47.3%	47.9%	67.8%
ある	27.4%	39.1%	36.5%	40.4%	25.2%
わからない	24.2%	17.4%	16.2%	8.5%	5.2%
無回答	1.6%	0.0%	0.0%	3.2%	1.7%

(注) 部分：主な評価箇所

(問3で「人権が侵害されたと感じたことがある」と回答した人に対して)

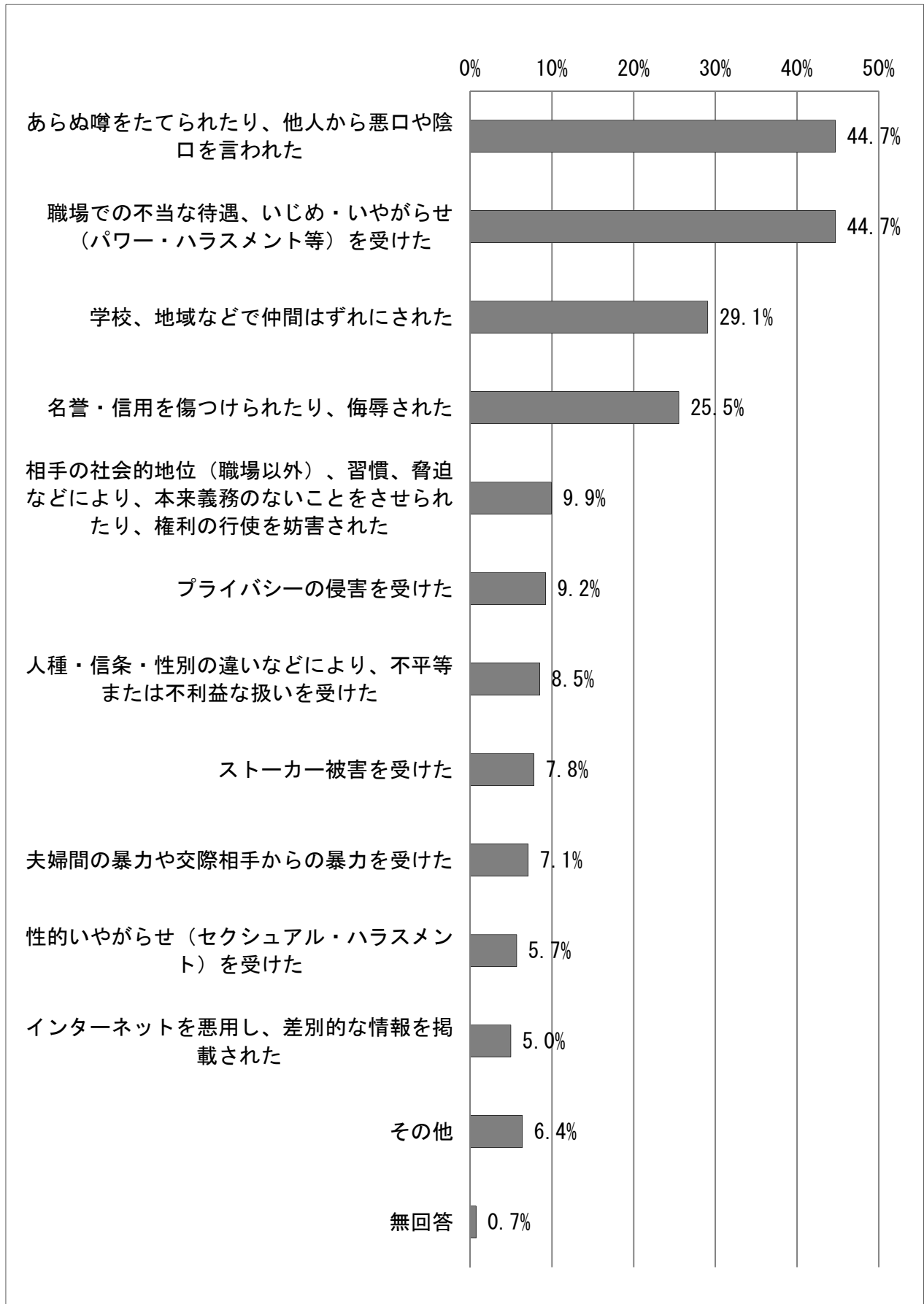
問3-1 それはどのような内容ですか。(該当するものすべてに○)

【全体】

人権が侵害されたと感じた経験がある141人に内容を聞いたところ、「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」と「職場での不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた」が40%を超え、高くなっている。

区 分		回答数	構成比
1	あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた	63	44.7%
2	名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された	36	25.5%
3	相手の社会的地位（職場以外）、習慣、脅迫などにより、本来義務のないことをさせられたり、権利の行使を妨害された	14	9.9%
4	職場での不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた	63	44.7%
5	人種・信条・性別の違いなどにより、不平等または不利益な扱いを受けた	12	8.5%
6	プライバシーの侵害を受けた	13	9.2%
7	インターネットを悪用し、差別的な情報を掲載された	7	5.0%
8	性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	8	5.7%
9	夫婦間の暴力や交際相手からの暴力を受けた	10	7.1%
10	ストーカー被害を受けた	11	7.8%
11	学校、地域などで仲間はずれにされた	41	29.1%
12	その他	9	6.4%
	無回答	1	0.7%

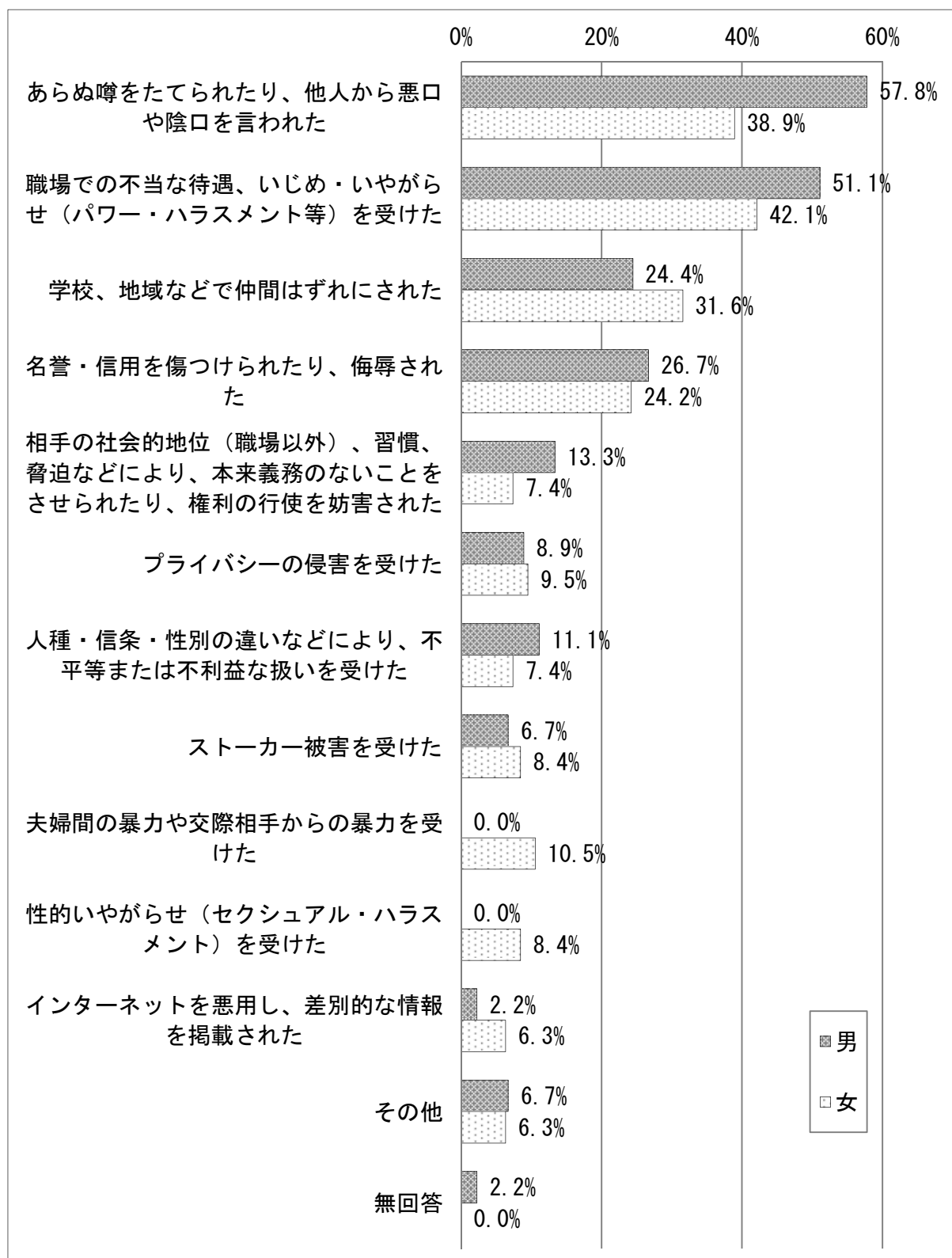
回答者数 141人



【性別】

男性では「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が、女性では「職場での不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた」が最も高くなっている。

「夫婦間の暴力や交際相手からの暴力を受けた」と「性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は、女性のみとなっている。



【年代別】

各年代において「あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた」、「職場での不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた」が高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
あらぬ噂をたてられたり、他人から悪口や陰口を言われた	64.7%	37.0%	51.9%	31.6%	48.3%
職場での不当な待遇、いじめ・いやがらせ（パワー・ハラスメント等）を受けた	35.3%	40.7%	51.9%	52.6%	37.9%
学校、地域などで仲間はずれにされた	41.2%	29.6%	37.0%	26.3%	20.7%
名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された	29.4%	18.5%	25.9%	26.3%	24.1%
相手の社会的地位（職場以外）、習慣、脅迫などにより、本来義務のないことをさせられたり、権利の行使を妨害された	0.0%	11.1%	3.7%	18.4%	6.9%
プライバシーの侵害を受けた	11.8%	7.4%	14.8%	7.9%	6.9%
人種・信条・性別の違いなどにより、不平等または不利益な扱いを受けた	0.0%	14.8%	7.4%	7.9%	10.3%
ストーカー被害を受けた	5.9%	14.8%	11.1%	7.9%	0.0%
夫婦間の暴力や交際相手からの暴力を受けた	0.0%	11.1%	3.7%	10.5%	6.9%
性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	0.0%	11.1%	11.1%	5.3%	0.0%
インターネットを悪用し、差別的な情報を掲載された	5.9%	7.4%	11.1%	2.6%	0.0%
その他	5.9%	11.1%	11.1%	5.3%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%

(注) 部分：主な評価箇所

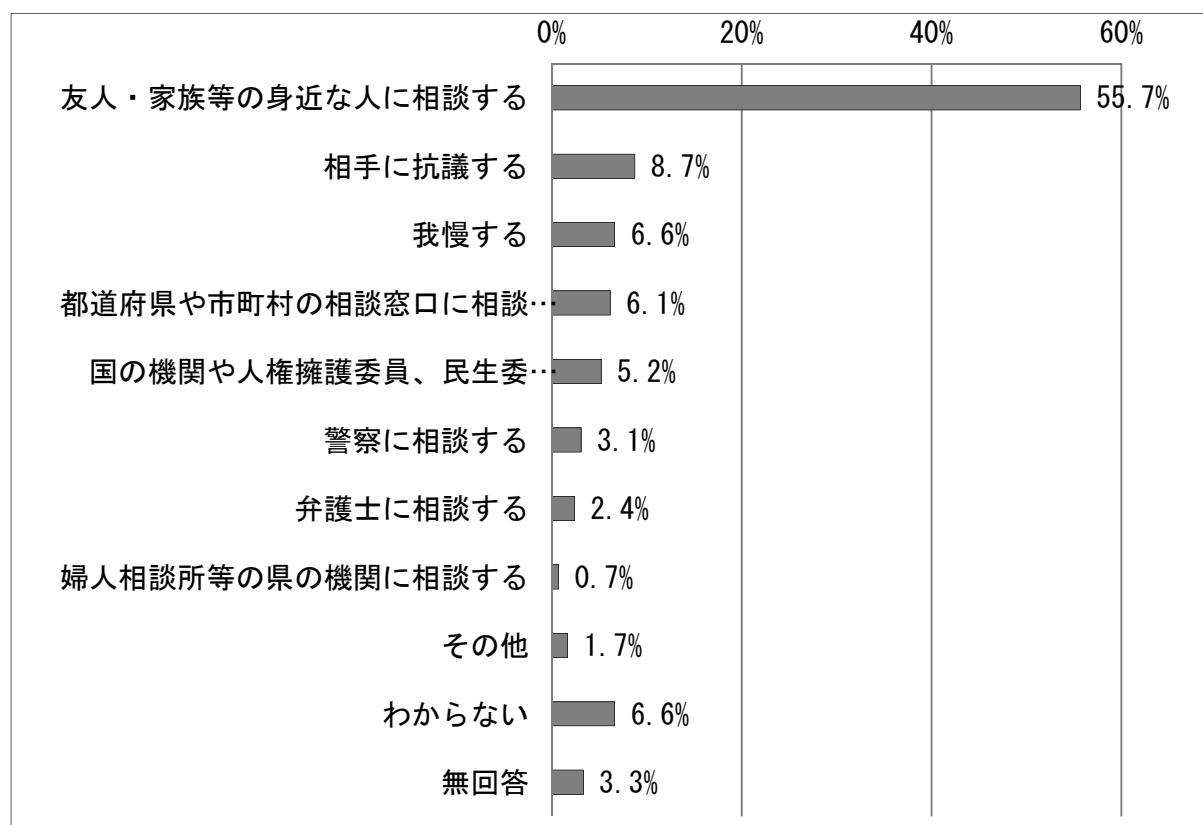
問4 もし、あなたが、ご自身の人権を侵害されたと感じた場合、まず、どのような対応をしますか。(〇は1つ)

【全体】

人権が侵害されたと感じた場合の対応は、「友人・家族等の身近な人に相談する」が55.7%で最も高くなっている。

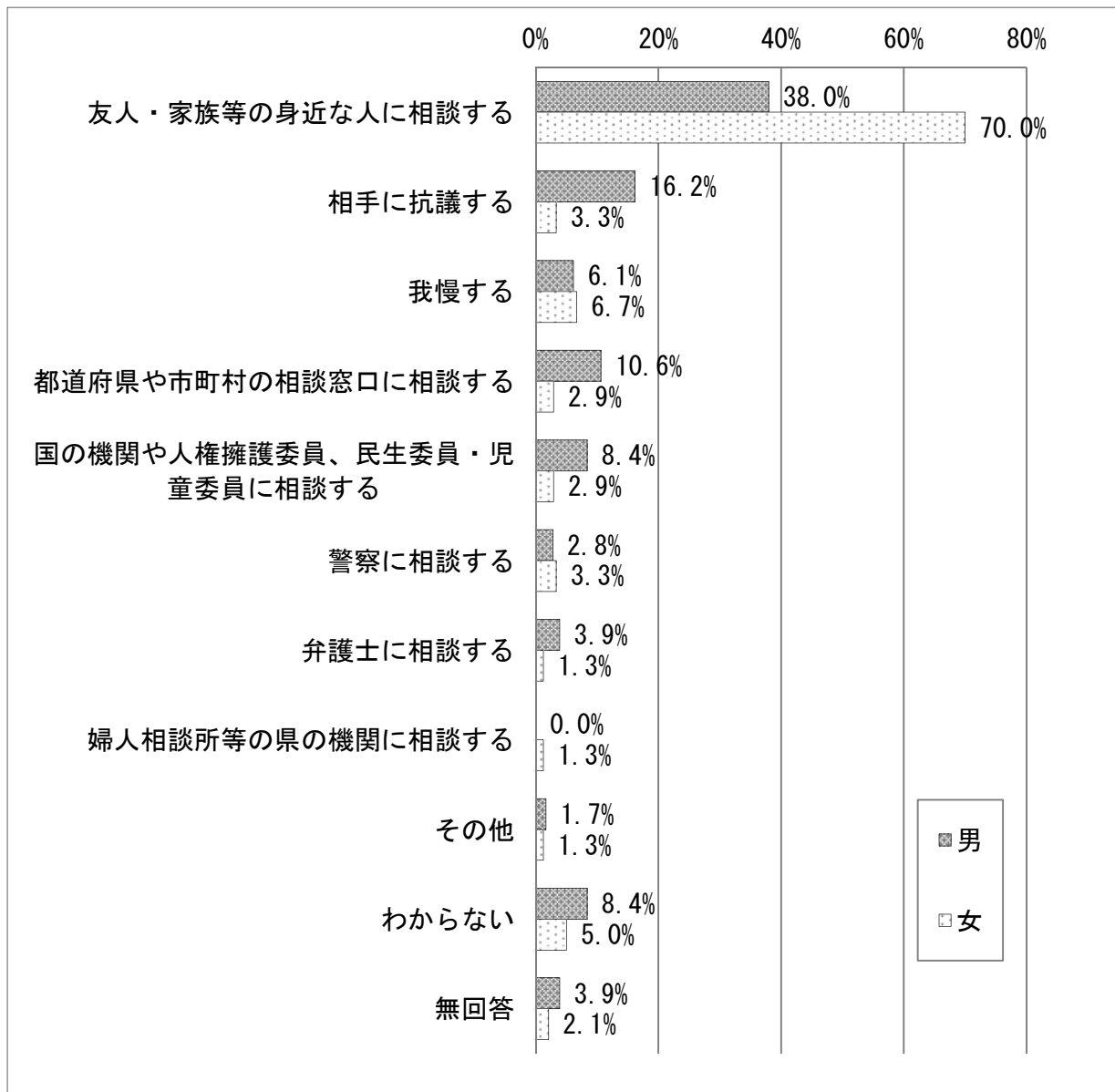
区 分	回答数	構成比
1 友人・家族等の身近な人に相談する	236	55.7%
2 弁護士に相談する	10	2.4%
3 国の機関や人権擁護委員、民生委員・児童委員に相談する	22	5.2%
4 婦人相談所等の県の機関に相談する	3	0.7%
5 都道府県や市町村の相談窓口相談する	26	6.1%
6 警察に相談する	13	3.1%
7 相手に抗議する	37	8.7%
8 我慢する	28	6.6%
9 その他	7	1.7%
10 わからない	28	6.6%
無回答	14	3.3%

回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「友人・家族等の身近な人に相談する」が最も高く、特に女性は70.0%となっている。



第2章 調査結果の分析

【年代別】

各年代において、「友人・家族等の身近な人に相談する」の割合が最も高く、特に40歳代では71.6%となっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
友人・家族等の身近な人に相談する	59.7%	60.9%	71.6%	58.5%	40.0%
相手に抗議する	8.1%	1.4%	4.1%	16.0%	11.3%
我慢する	12.9%	8.7%	6.8%	3.2%	5.2%
都道府県や市町村の相談窓口相談する	1.6%	1.4%	5.4%	4.3%	13.9%
国の機関や人権擁護委員、民生委員・児童委員に相談する	3.2%	2.9%	1.4%	0.0%	13.9%
警察に相談する	3.2%	4.3%	2.7%	3.2%	2.6%
弁護士に相談する	1.6%	2.9%	2.7%	2.1%	2.6%
婦人相談所等の県の機関に相談する	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	0.9%
その他	0.0%	4.3%	1.4%	1.1%	0.0%
わからない	4.8%	11.6%	2.7%	7.4%	6.1%
無回答	4.8%	1.4%	0.0%	3.2%	3.5%

(注) 部分：主な評価箇所

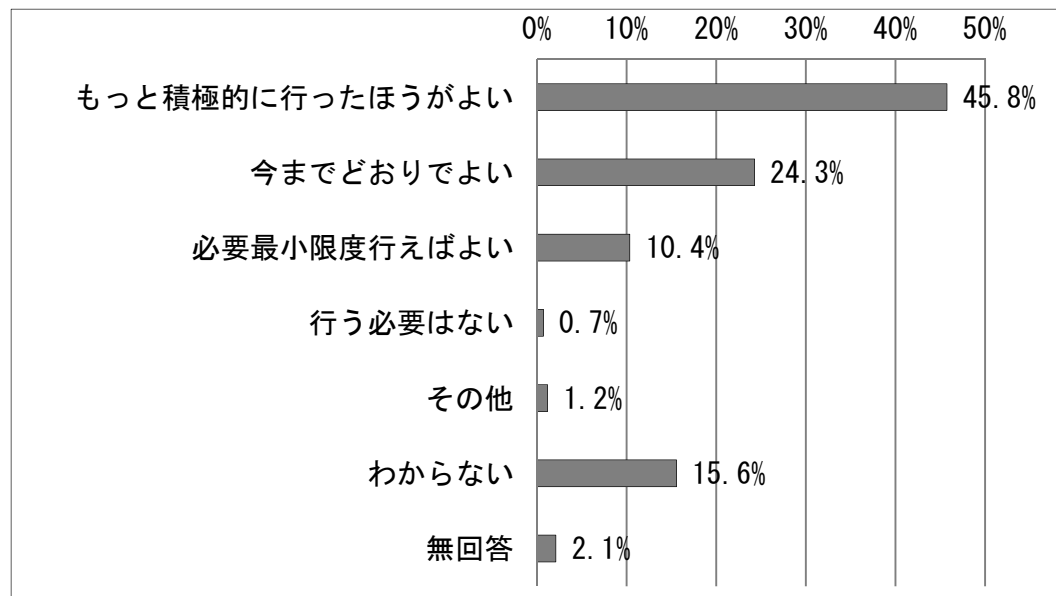
問5 あなたは、市や町において、人権教育・啓発をどのように進めたらよいと思いますか。(〇は1つ)

【全体】

人権教育・啓発の進め方については、「もっと積極的に行ったほうがよい」が45.8%で、最も高くなっている。

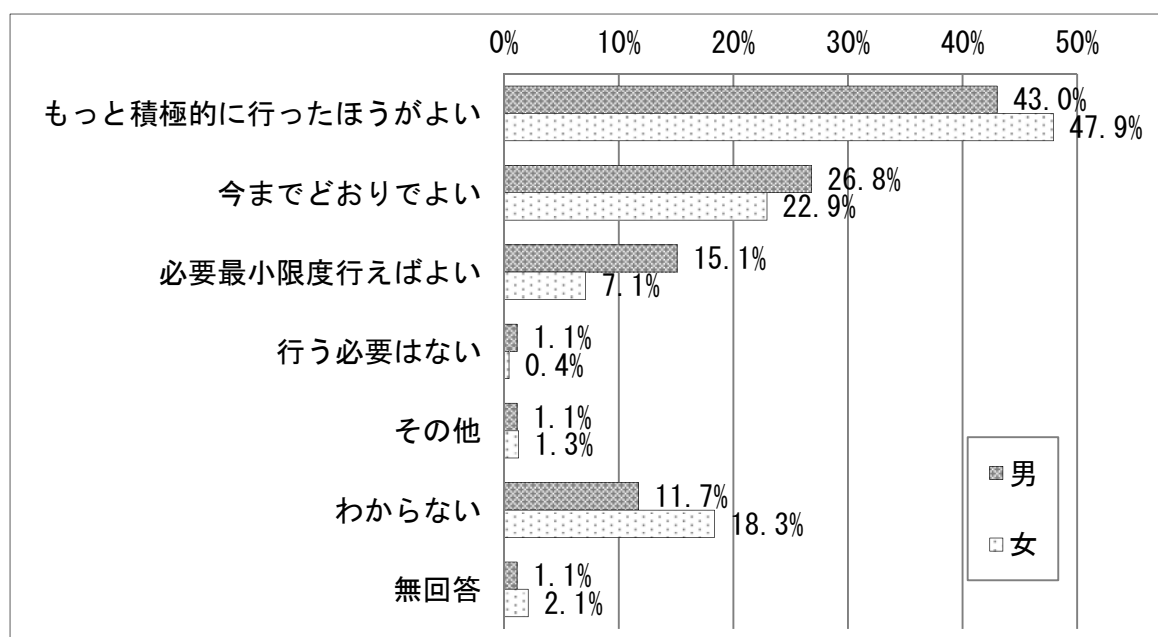
区 分	回答数	構成比
1 もっと積極的に行ったほうがよい	194	45.8%
2 今までどおりでよい	103	24.3%
3 必要最小限度行えばよい	44	10.4%
4 行う必要はない	3	0.7%
5 その他	5	1.2%
6 わからない	66	15.6%
無回答	9	2.1%

回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「もっと積極的に行ったほうがよい」が45%前後と最も高く、次いで「今までどおりでよい」となっている。



【年代別】

20歳代から50歳代では「もっと積極的に行ったほうがよい」が、60歳以上では「今までどおりでよい」が、最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳 以上
もっと積極的に行ったほうがよい	35.5%	55.1%	60.8%	52.1%	31.3%
今までどおりでよい	25.8%	15.9%	13.5%	27.7%	33.9%
必要最小限度行えばよい	14.5%	14.5%	6.8%	7.4%	11.3%
行う必要はない	1.6%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%
その他	1.6%	2.9%	0.0%	1.1%	0.0%
わからない	16.1%	11.6%	17.6%	8.5%	21.7%
無回答	4.8%	0.0%	1.4%	1.1%	1.7%

(注) 部分：主な評価箇所

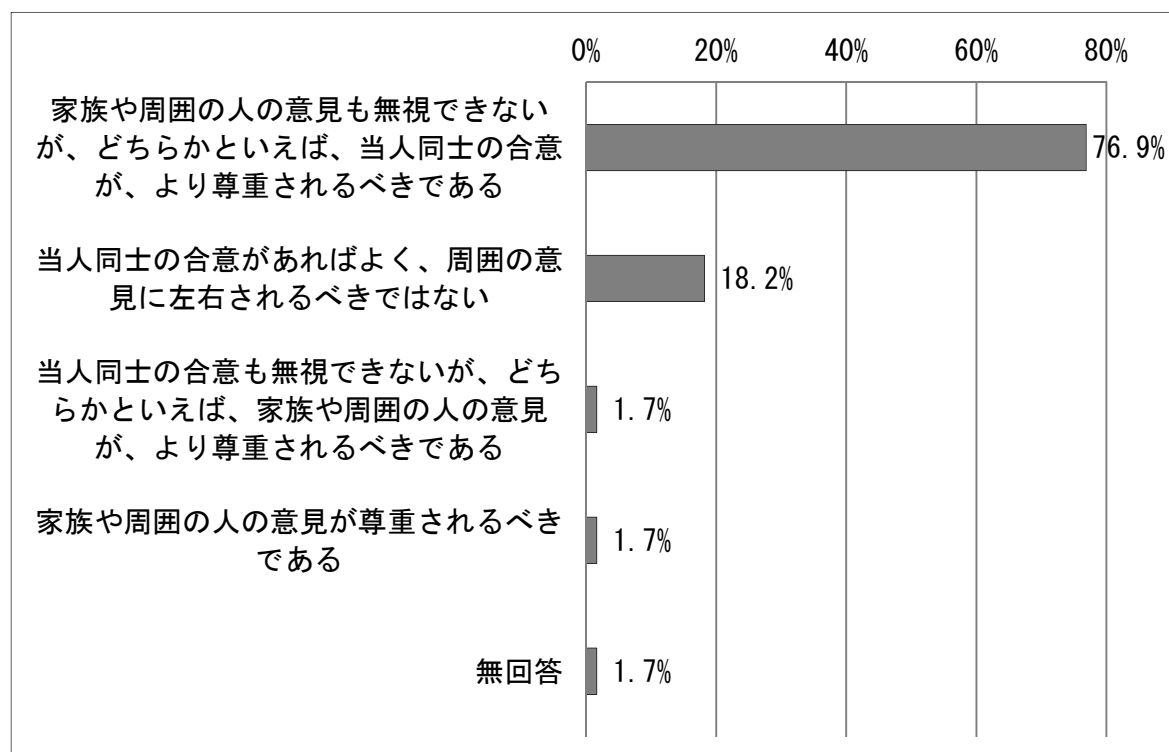
問6 あなたは、結婚についてどのように考えますか。(○は1つ)

【全体】

結婚についての考え方は、「家族や周囲の人の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである」が76.9%、次いで「当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきではない」が18.2%となっている。どちらかといえばを含め、当人同士の意見を尊重する人の割合が95.1%となっている。

区 分		回答数	構成比
1	当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきではない	77	18.2%
2	家族や周囲の人の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである	326	76.9%
3	当人同士の合意も無視できないが、どちらかといえば、家族や周囲の人の意見が、より尊重されるべきである	7	1.7%
4	家族や周囲の人の意見が尊重されるべきである	7	1.7%
無回答		7	1.7%

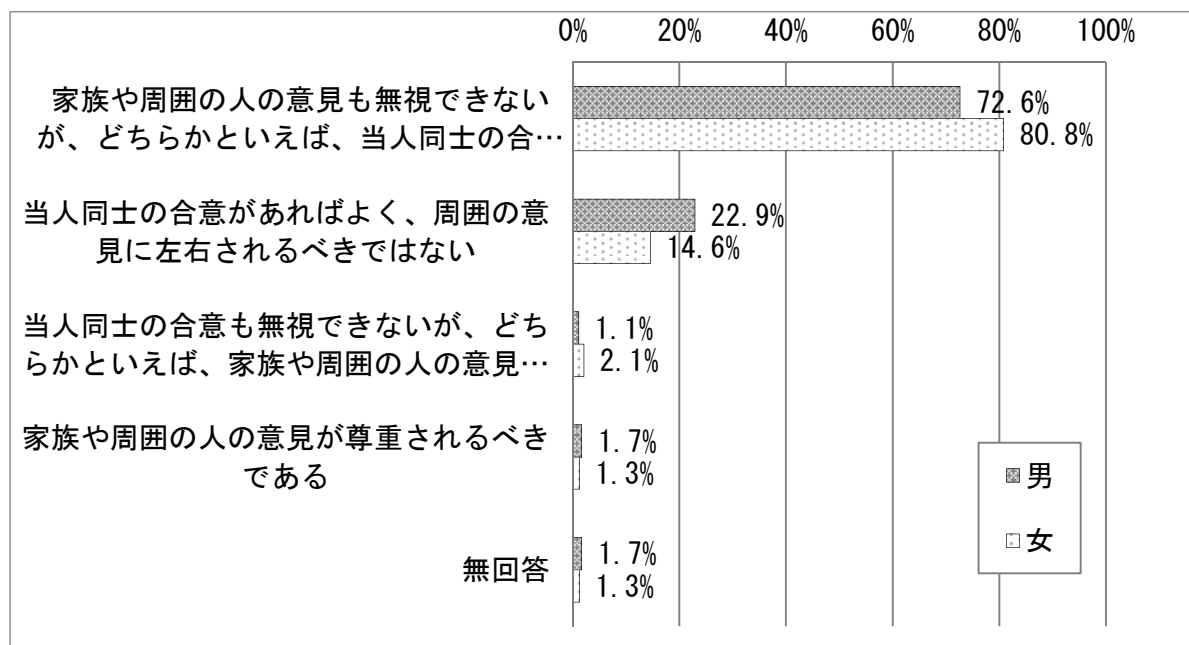
回答者数 424 人



第2章 調査結果の分析

【性別】

男女ともに、「家族や周囲の人の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである」が70%以上で最も高く、次いで「当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきではない」となっている。



【年代別】

各年代において「家族や周囲の人の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである」が70%以上となっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
家族や周囲の人の意見も無視できないが、どちらかといえば、当人同士の合意が、より尊重されるべきである	75.8%	81.2%	86.5%	75.5%	71.3%
当人同士の合意があればよく、周囲の意見に左右されるべきではない	19.4%	17.4%	13.5%	18.1%	21.7%
当人同士の合意も無視できないが、どちらかといえば、家族や周囲の人の意見が、より尊重されるべきである	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	3.5%
家族や周囲の人の意見が尊重されるべきである	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	3.5%
無回答	4.8%	1.4%	0.0%	1.1%	0.0%

(注) 部分：主な評価箇所

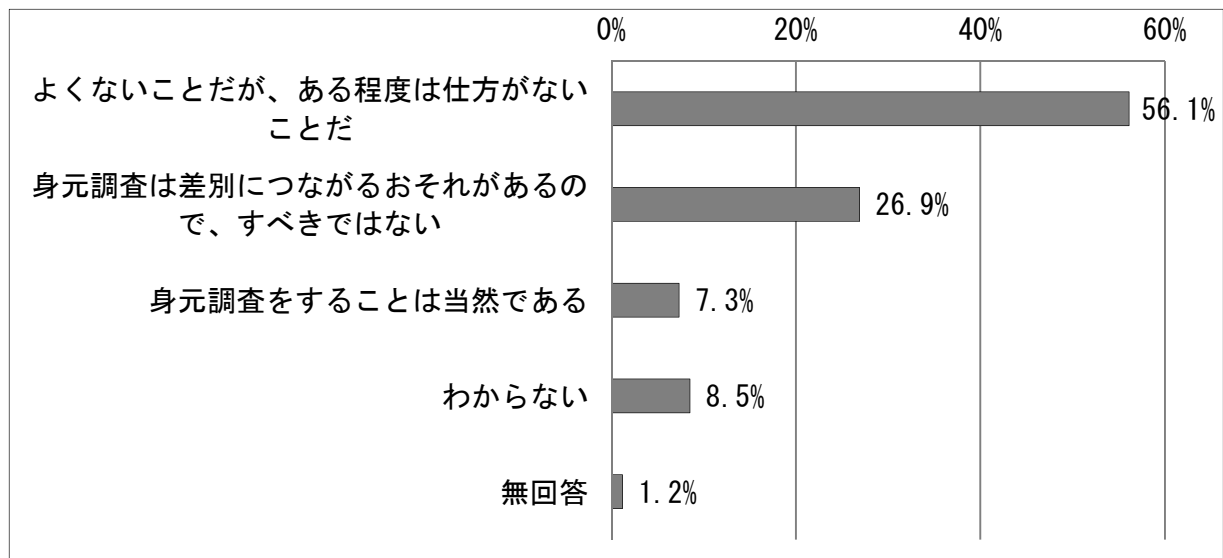
問7 あなたは、結婚や就職の際に、身元調査をすることをどう思いますか。(〇は1つ)

【全体】

「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が56.1%で最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない」が26.9%となっている。

区 分	回答数	構成比
1 身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない	114	26.9%
2 よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ	238	56.1%
3 身元調査をすることは当然である	31	7.3%
4 わからない	36	8.5%
無回答	5	1.2%

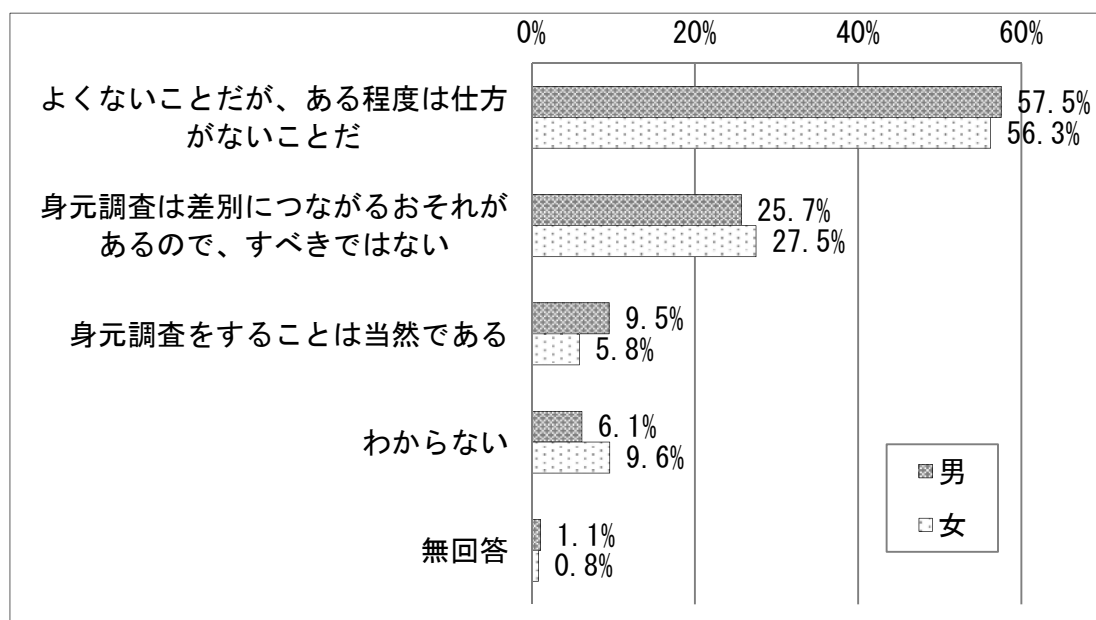
回答者数 424 人



第2章 調査結果の分析

【性別】

男女ともに「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が55%以上と最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない」となっている。



【年代別】

各年代で「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が最も高く、特に40歳代で67.6%となっている。次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない」が高く、50歳代で39.4%となっている。

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ	51.6%	52.2%	67.6%	46.8%	62.6%
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきではない	19.4%	29.0%	24.3%	39.4%	21.7%
身元調査をすることは当然である	11.3%	7.2%	2.7%	6.4%	9.6%
わからない	11.3%	11.6%	5.4%	7.4%	6.1%
無回答	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(注) 部分：主な評価箇所

2 女性の人権に対する意識

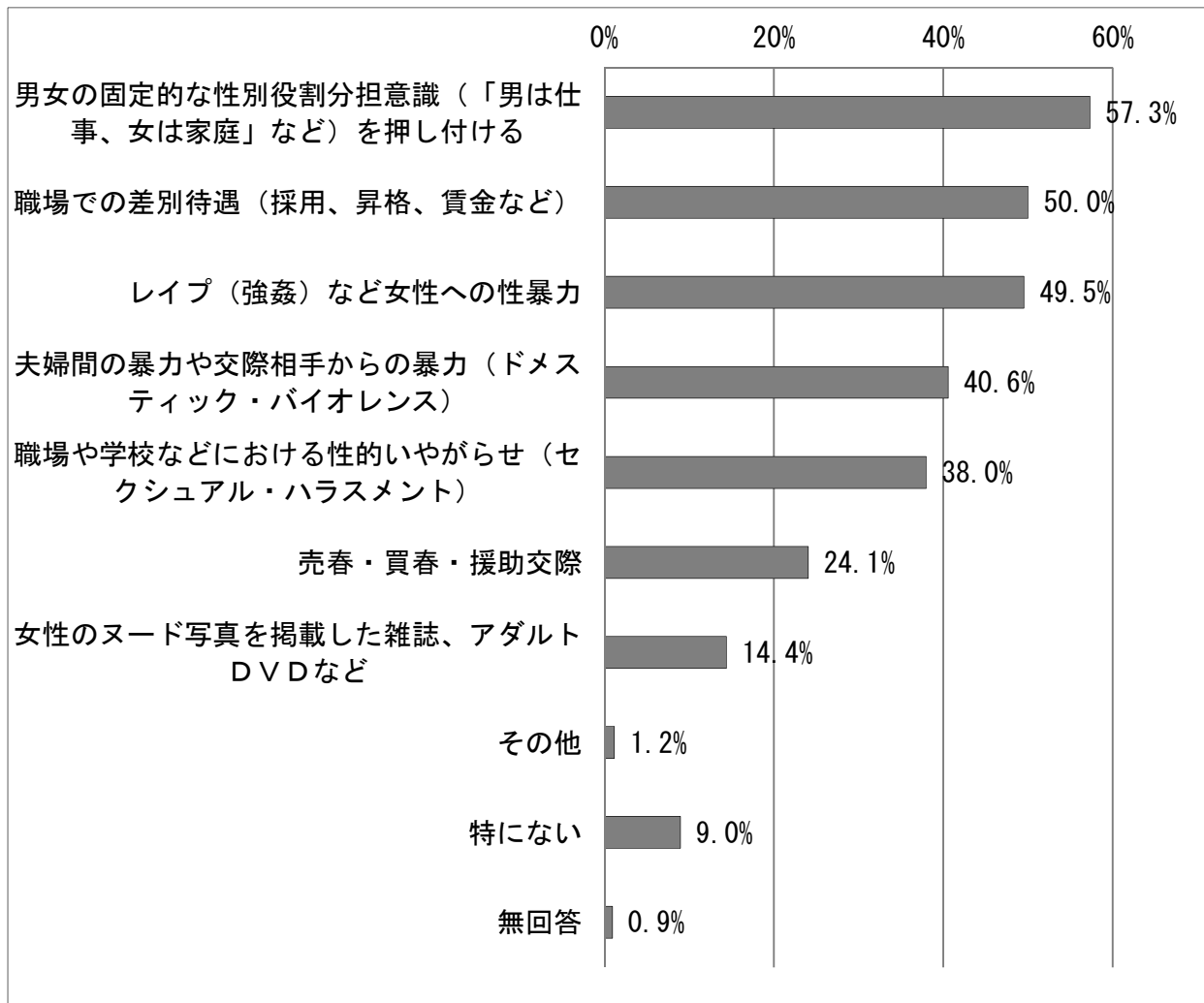
問8 あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのような行為に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

女性の人権が尊重されていないと感じるのは、「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」が57.3%で最も高く、次いで「職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）」「レイプ（強姦）など女性への性暴力」となっている。

区 分	回答数	構成比
1 男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける	243	57.3%
2 職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）	212	50.0%
3 売春・買春・援助交際	102	24.1%
4 レイプ（強姦）など女性への性暴力	210	49.5%
5 夫婦間の暴力や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）	172	40.6%
6 職場や学校などにおける性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	161	38.0%
7 女性のヌード写真を掲載した雑誌、アダルトDVDなど	61	14.4%
8 その他	5	1.2%
9 特にない	38	9.0%
無回答	4	0.9%

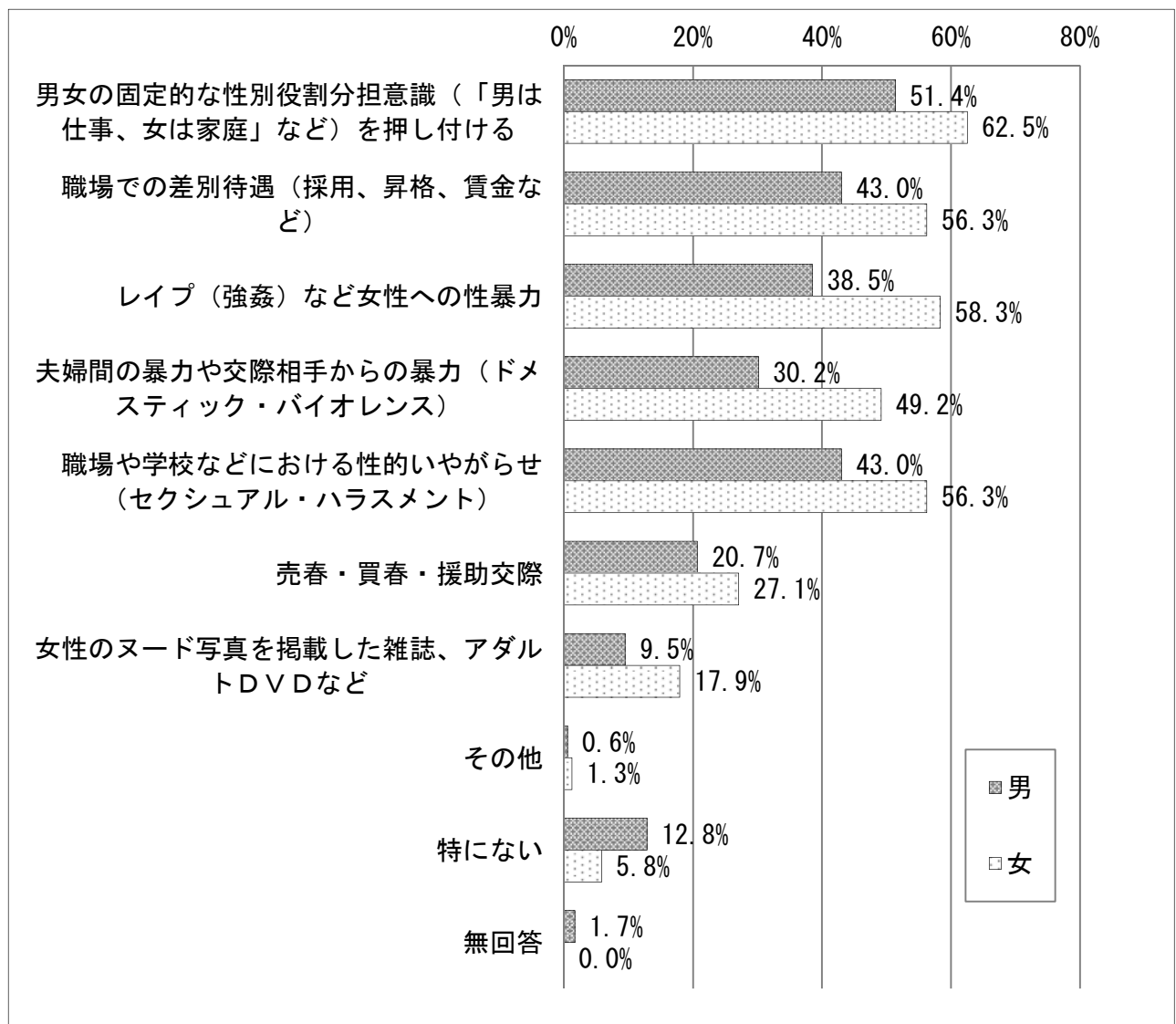
回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」が最も高く、次いで男性では「職場の差別待遇（採用、昇格、賃金など）」、「職場や学校などにおける性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）」、女性では「レイプ（強姦）など女性への性暴力」となっている。

多くの項目において、女性の割合が男性より高くなっており、特に「レイプ（強姦）など女性への性暴力」で19.8ポイント、「夫婦間の暴力や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）」では19ポイント高くなっている。



【年代別】

40歳代は他年代と比べて、「男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける」では最も低い、「職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）」、「レイプ（強姦）など女性への性暴力」、「夫婦間の暴力や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）」、「職場や学校などにおける性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）」では最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付ける	62.9%	59.4%	50.0%	61.7%	54.8%
職場での差別待遇（採用、昇格、賃金など）	51.6%	49.3%	56.8%	48.9%	47.8%
レイプ（強姦）など女性への性暴力	45.2%	55.1%	58.1%	53.2%	40.9%
夫婦間の暴力や交際相手からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）	37.1%	39.1%	52.7%	46.8%	31.3%
職場や学校などにおける性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	38.7%	42.0%	44.6%	42.6%	27.8%
売春・買春・援助交際	22.6%	17.4%	27.0%	21.3%	30.4%
女性のヌード写真を掲載した雑誌、アダルトDVDなど	8.1%	10.1%	16.2%	11.7%	21.7%
その他	0.0%	1.4%	1.4%	0.0%	2.6%
特になし	4.8%	7.2%	1.4%	7.4%	17.4%
無回答	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%

（注） 部分：主な評価箇所

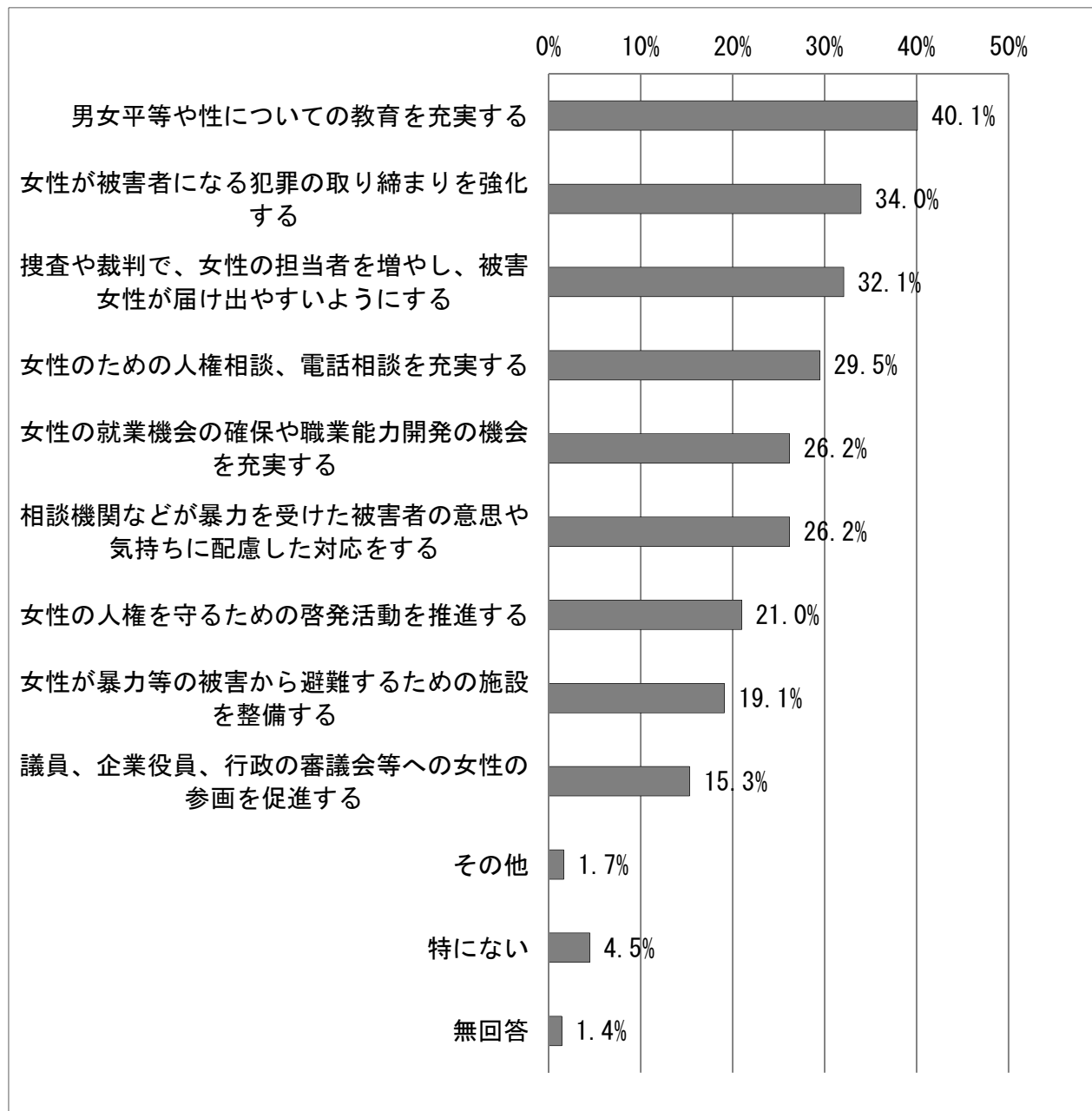
問9 あなたは、女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

【全体】

女性の人権を守るために必要なこととして、「男女平等や性についての教育を充実する」が40.1%で最も多く、次いで「女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する」が34.0%となっている。

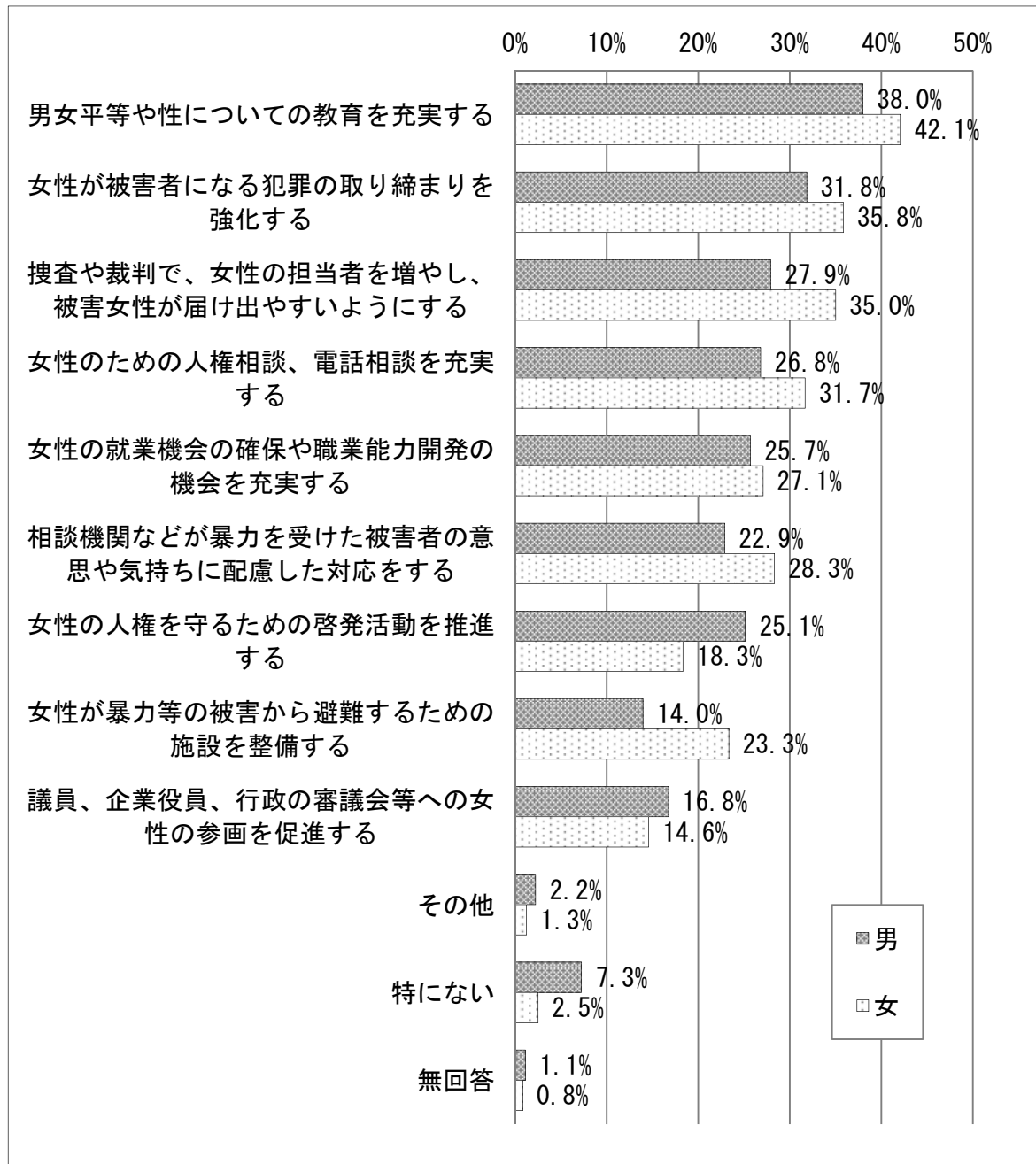
区 分	回答数	構成比
1 女性の人権を守るための啓発活動を推進する	89	21.0%
2 女性のための人権相談、電話相談を充実する	125	29.5%
3 男女平等や性についての教育を充実する	170	40.1%
4 女性の就業機会の確保や職業能力開発の機会を充実する	111	26.2%
5 議員、企業役員、行政の審議会等への女性の参画を促進する	65	15.3%
6 女性が暴力等の被害から避難するための施設を整備する	81	19.1%
7 女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	144	34.0%
8 相談機関などが暴力を受けた被害者の意思や気持ちに配慮した対応をする	111	26.2%
9 捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする	136	32.1%
10 その他	7	1.7%
11 特にない	19	4.5%
無回答	6	1.4%

回答者数 424 人



【性別】

「女性の人権を守るための啓発活動を推進する」では、男性の割合が女性より高く、それ以外の多くの項目では、女性の割合が男性より高くなっている。



【年代別】

20歳代では「捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする」、40歳代では「女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する」、50歳代、60歳以上では「男女平等や性についての教育を充実する」で割合が高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
男女平等や性についての教育を充実する	38.7%	37.7%	32.4%	43.6%	46.1%
女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	25.8%	31.9%	45.9%	30.9%	35.7%
捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする	48.4%	34.8%	36.5%	23.4%	27.0%
女性のための人権相談、電話相談を充実する	27.4%	27.5%	29.7%	35.1%	26.1%
女性の就業機会の確保や職業能力開発の機会を充実する	29.0%	33.3%	28.4%	28.7%	19.1%
相談機関などが暴力を受けた被害者の意思や気持ちに配慮した対応をする	24.2%	24.6%	24.3%	29.8%	26.1%
女性の人権を守るための啓発活動を推進する	12.9%	13.0%	16.2%	21.3%	34.8%
女性が暴力等の被害から避難するための施設を整備する	12.9%	15.9%	37.8%	22.3%	9.6%
議員、企業役員、行政の審議会等への女性の参画を促進する	11.3%	20.3%	13.5%	14.9%	17.4%
その他	0.0%	1.4%	2.7%	1.1%	2.6%
特になし	1.6%	5.8%	0.0%	4.3%	7.8%
無回答	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%

(注) 部分：主な評価箇所

3 子どもの人権に対する意識

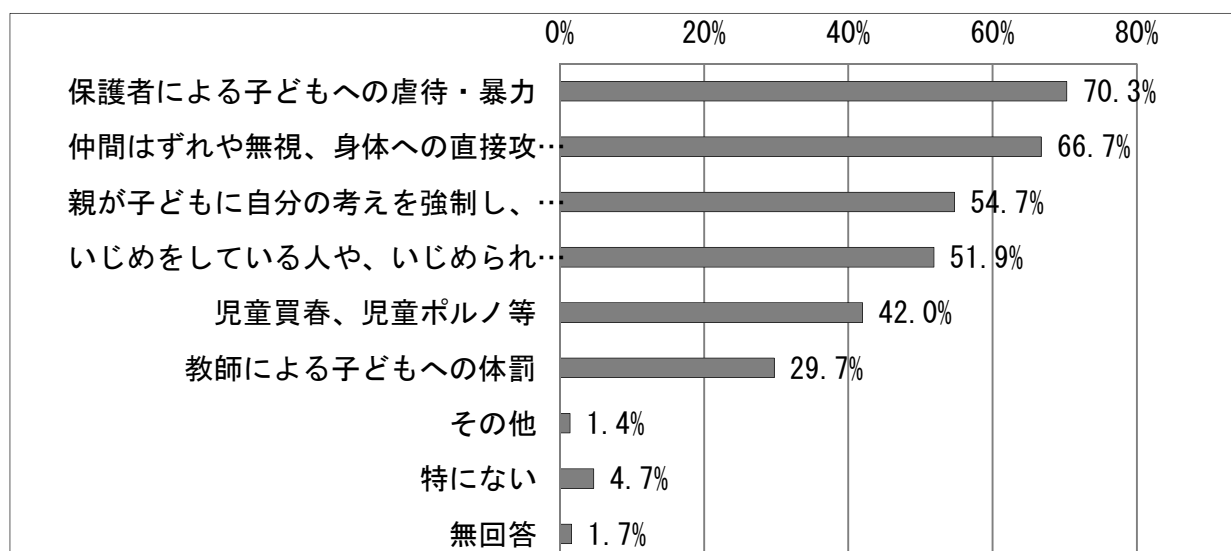
問 10 あなたは、子どもの人権が尊重されていないと感じるのはどのような状況に対してですか。(該当するものすべてに○)

【全体】

子どもの人権が尊重されていないと感じる状況は、「保護者による子どもへの虐待・暴力」が70.3%で最も高く、次いで「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要」が66.7%、「親が子どもに自分の考えを強制し、子どもの意見を尊重しない」が54.7%となっている。

区 分	回答数	構成比
1 仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要	283	66.7%
2 いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬ振りをする	220	51.9%
3 教師による子どもへの体罰	126	29.7%
4 保護者による子どもへの虐待・暴力	298	70.3%
5 親が子どもに自分の考えを強制し、子どもの意見を尊重しない	232	54.7%
6 児童買春、児童ポルノ等	178	42.0%
7 その他	6	1.4%
8 特にない	20	4.7%
無回答	7	1.7%

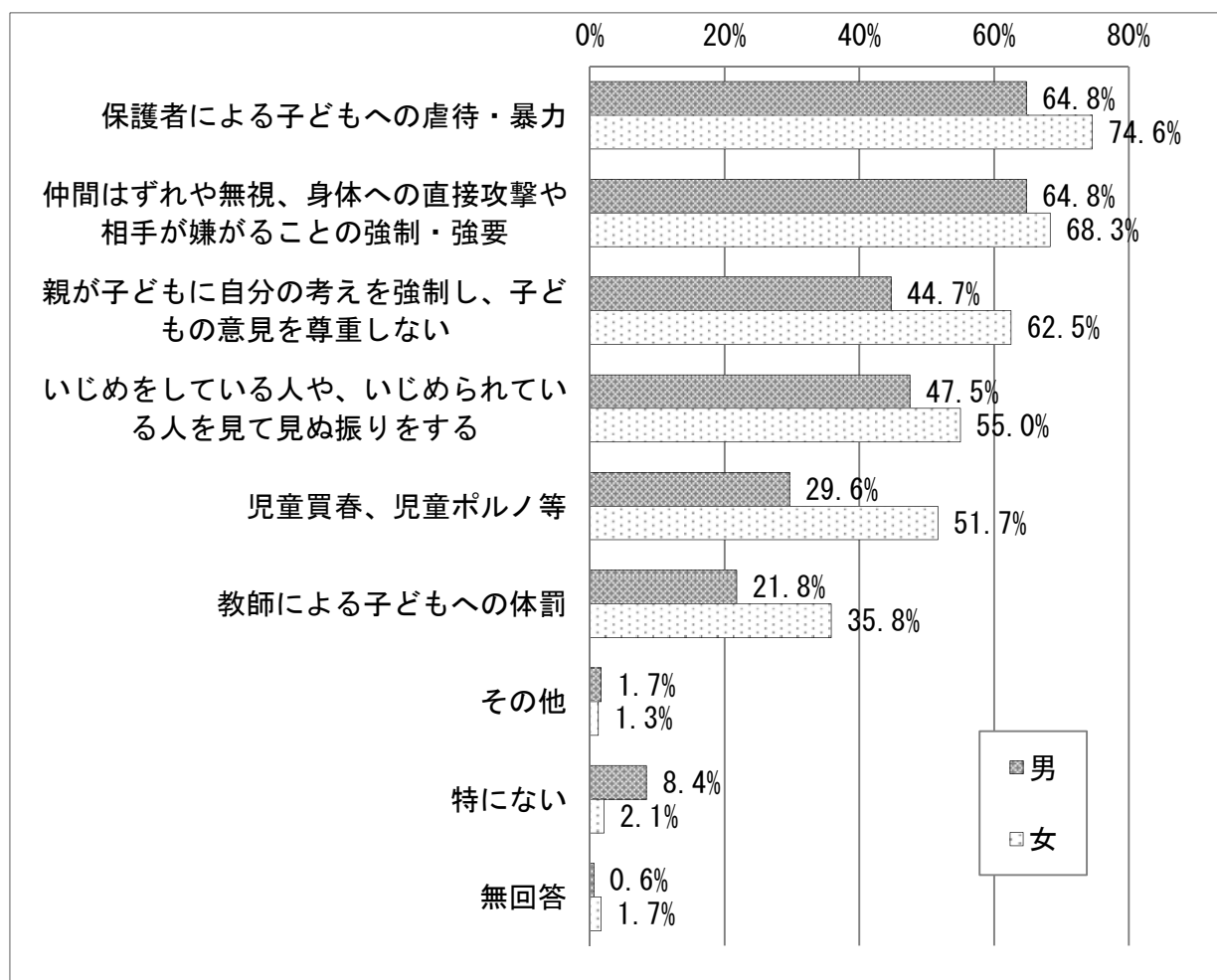
回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「保護者による子どもへの虐待・暴力」、「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要」が60%を超え、高くなっている。

多くの項目において、女性の割合が男性より高くなっており、特に「親が子どもに自分の考えを強制し、子どもの意見を尊重しない」で17.8ポイント、「児童買春、児童ポルノ等」では22.1ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「保護者による子どもへの虐待・暴力」、「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることの強制・強要」が高くなっている。

「親が子どもに自分の考えを強制し、子どもの意見を尊重しない」では、20歳代と30歳代の割合が高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
保護者による子どもへの虐待・暴力	64.5%	81.2%	70.3%	72.3%	67.0%
仲間はずれや無視、身体への直接攻撃 や相手が嫌がることの強制・強要	61.3%	56.5%	75.7%	76.6%	63.5%
親が子どもに自分の考えを強制し、子 どもの意見を尊重しない	66.1%	66.7%	44.6%	52.1%	49.6%
いじめをしている人や、いじめられて いる人を見て見ぬ振りをする	46.8%	46.4%	54.1%	58.5%	52.2%
児童買春、児童ポルノ等	41.9%	55.1%	43.2%	40.4%	35.7%
教師による子どもへの体罰	32.3%	37.7%	32.4%	27.7%	25.2%
その他	0.0%	1.4%	2.7%	2.1%	0.9%
特になし	3.2%	2.9%	0.0%	2.1%	11.3%
無回答	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	2.6%

(注) 部分：主な評価箇所

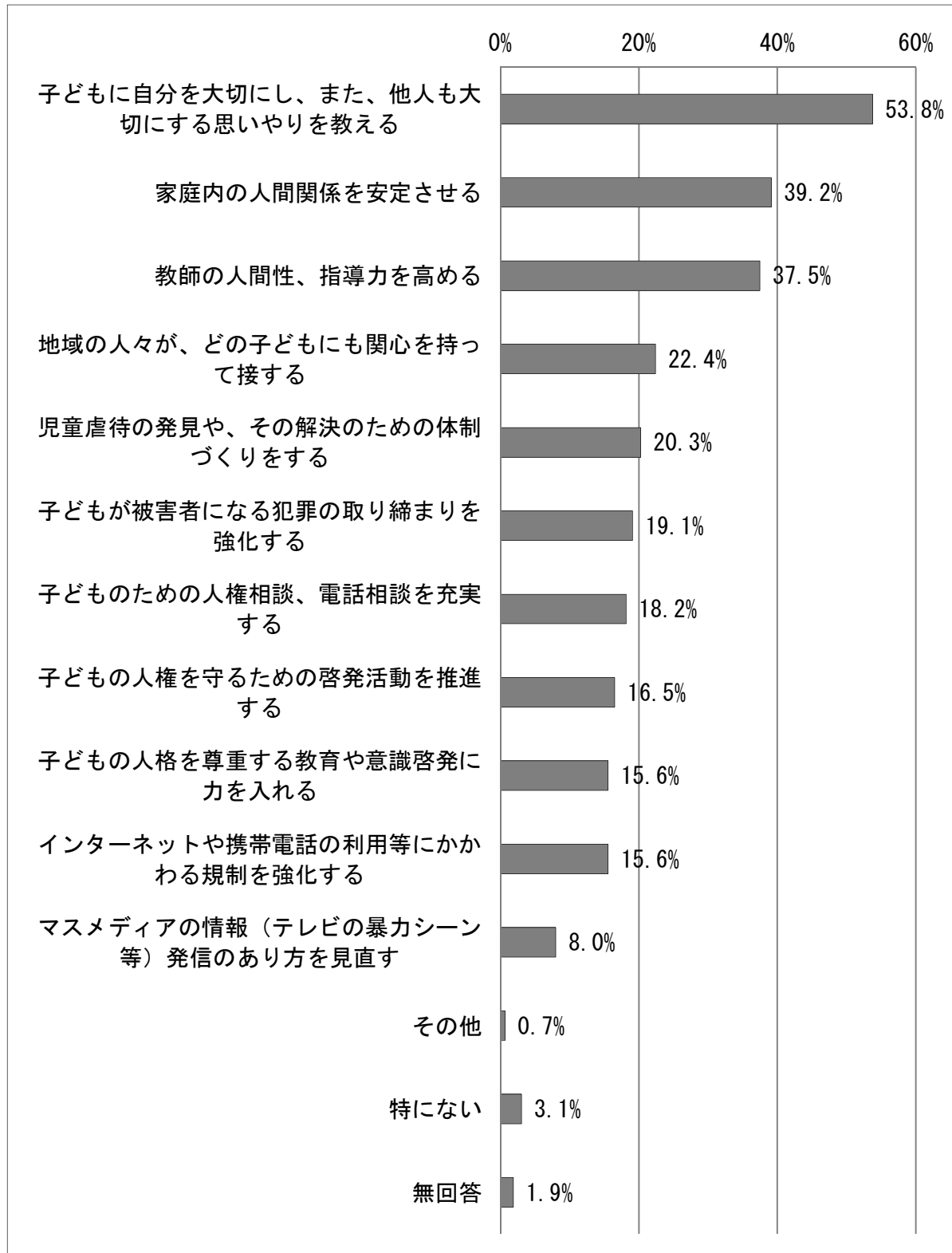
問11 あなたは、子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

子どもの人権を守るために必要なこととして、「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える」が53.8%で最も高く、次いで「家庭内の人間関係を安定させる」が39.2%、「教師の人間性、指導力を高める」が37.5%、となっている。

区 分	回答数	構成比
1 子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	70	16.5%
2 子どものための人権相談、電話相談を充実する	77	18.2%
3 教師の人間性、指導力を高める	159	37.5%
4 家庭内の人間関係を安定させる	166	39.2%
5 子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える	228	53.8%
6 子ども的人格を尊重する教育や意識啓発に力を入れる	66	15.6%
7 地域の人々が、どの子どもにも関心を持って接する	95	22.4%
8 子どもが被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	81	19.1%
9 児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	86	20.3%
10 マスメディアの情報（テレビの暴力シーン等）発信のあり方を見直す	34	8.0%
11 インターネットや携帯電話の利用等にかかわる規制を強化する	66	15.6%
12 その他	3	0.7%
13 特にない	13	3.1%
無回答	8	1.9%

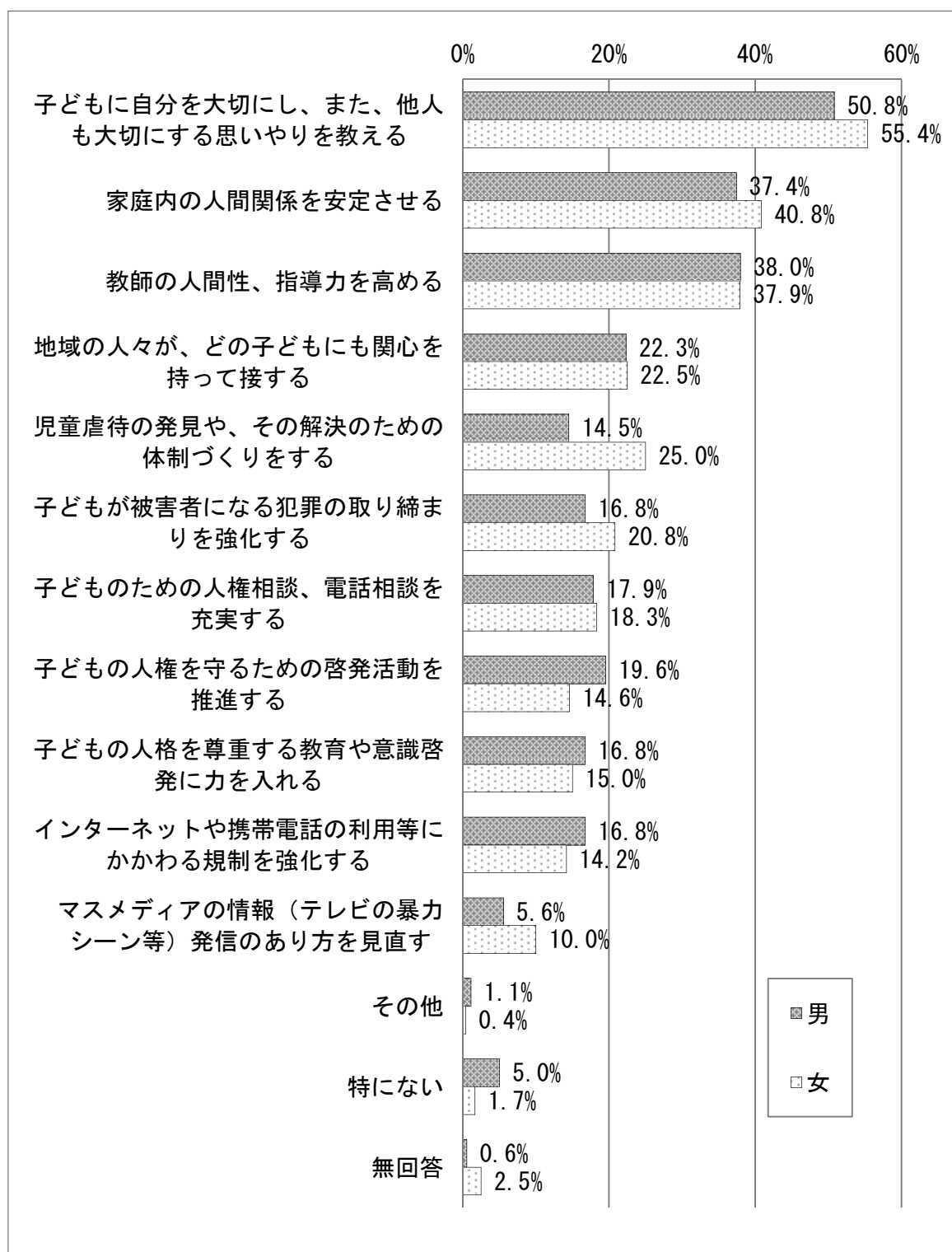
回答者数 424人



【性別】

男女ともに「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える」が50%を超え、最も高くなっている。

「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」では、女性の割合が男性より10.5ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える」が最も高くなっている。

「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」では、30歳代と40歳代の割合が高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にする思いやりを教える	48.4%	60.9%	51.4%	56.4%	51.3%
家庭内の人間関係を安定させる	33.9%	46.4%	39.2%	44.7%	34.8%
教師の人間性、指導力を高める	32.3%	34.8%	40.5%	38.3%	40.9%
地域の人々が、どの子どもにも関心を持って接する	25.8%	15.9%	21.6%	22.3%	26.1%
児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	19.4%	26.1%	35.1%	19.1%	9.6%
子どもが被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	22.6%	23.2%	24.3%	11.7%	15.7%
子どものための人権相談、電話相談を充実する	19.4%	14.5%	20.3%	18.1%	20.0%
子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	6.5%	14.5%	14.9%	18.1%	24.3%
子どもの人格を尊重する教育や意識啓発に力を入れる	17.7%	20.3%	8.1%	17.0%	16.5%
インターネットや携帯電話の利用等にかかわる規制を強化する	17.7%	13.0%	10.8%	18.1%	13.9%
マスメディアの情報（テレビの暴力シーン等）発信のあり方を見直す	12.9%	1.4%	9.5%	6.4%	10.4%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.7%
特になし	1.6%	4.3%	0.0%	2.1%	5.2%
無回答	0.0%	1.4%	2.7%	2.1%	1.7%

(注) 部分：主な評価箇所

4 高齢者の人権に対する意識

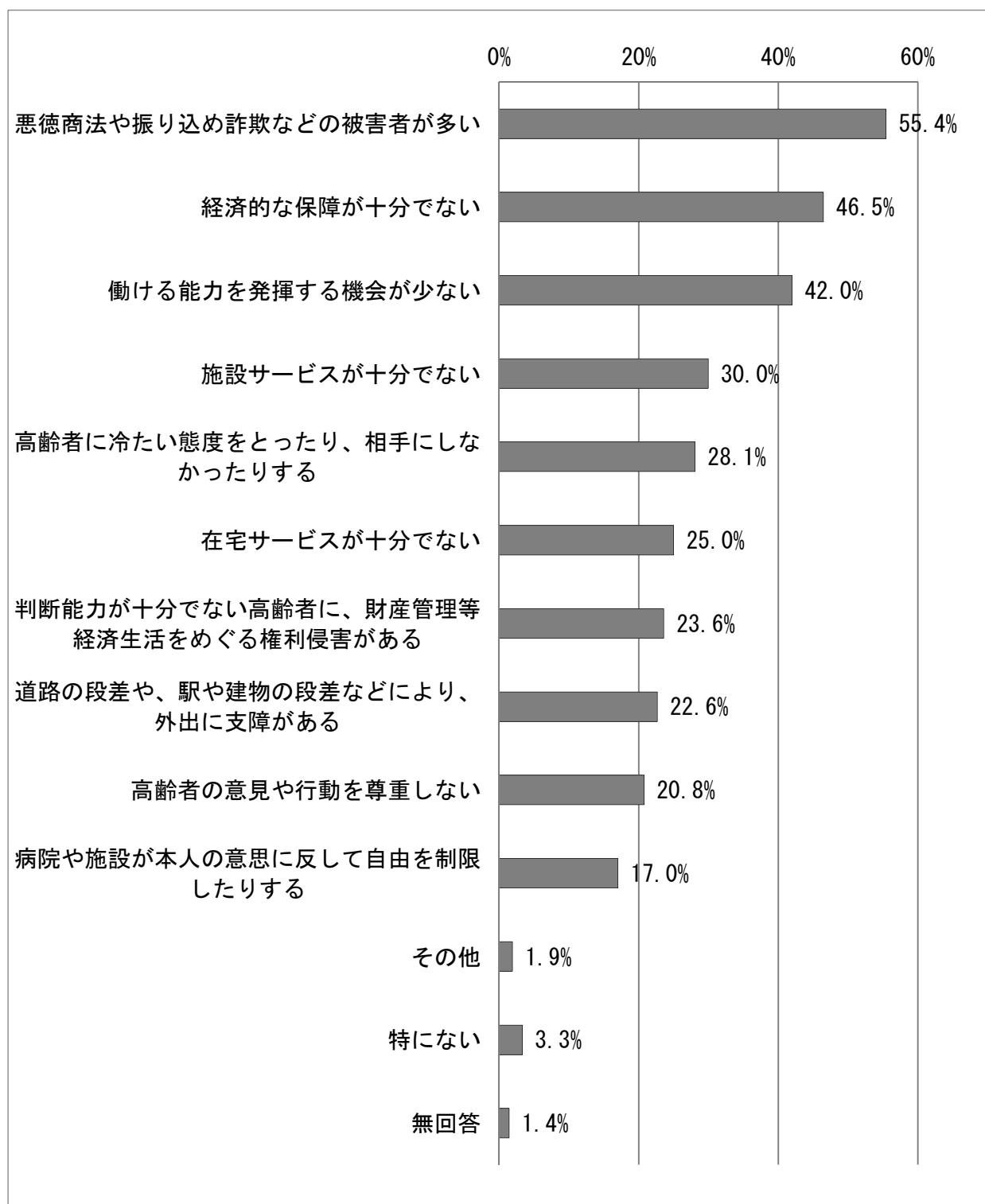
問 12 あなたは、高齢者の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

高齢者の人権が尊重されていないと感じる状況は、「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い」が55.4%と最も高く、次いで「経済的な保障が十分でない」が46.5%、「働ける能力を発揮する機会が少ない」が42.0%となっている。

区 分		回答数	構成比
1	経済的な保障が十分でない	197	46.5%
2	働ける能力を発揮する機会が少ない	178	42.0%
3	施設サービスが十分でない	127	30.0%
4	在宅サービスが十分でない	106	25.0%
5	病院や施設が本人の意思に反して自由を制限したりする	72	17.0%
6	道路の段差や、駅や建物の段差などにより、外出に支障がある	96	22.6%
7	高齢者に冷たい態度をとったり、相手にしなかったりする	119	28.1%
8	判断能力が十分でない高齢者に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	100	23.6%
9	高齢者の意見や行動を尊重しない	88	20.8%
10	悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い	235	55.4%
11	その他	8	1.9%
12	特にない	14	3.3%
	無回答	6	1.4%

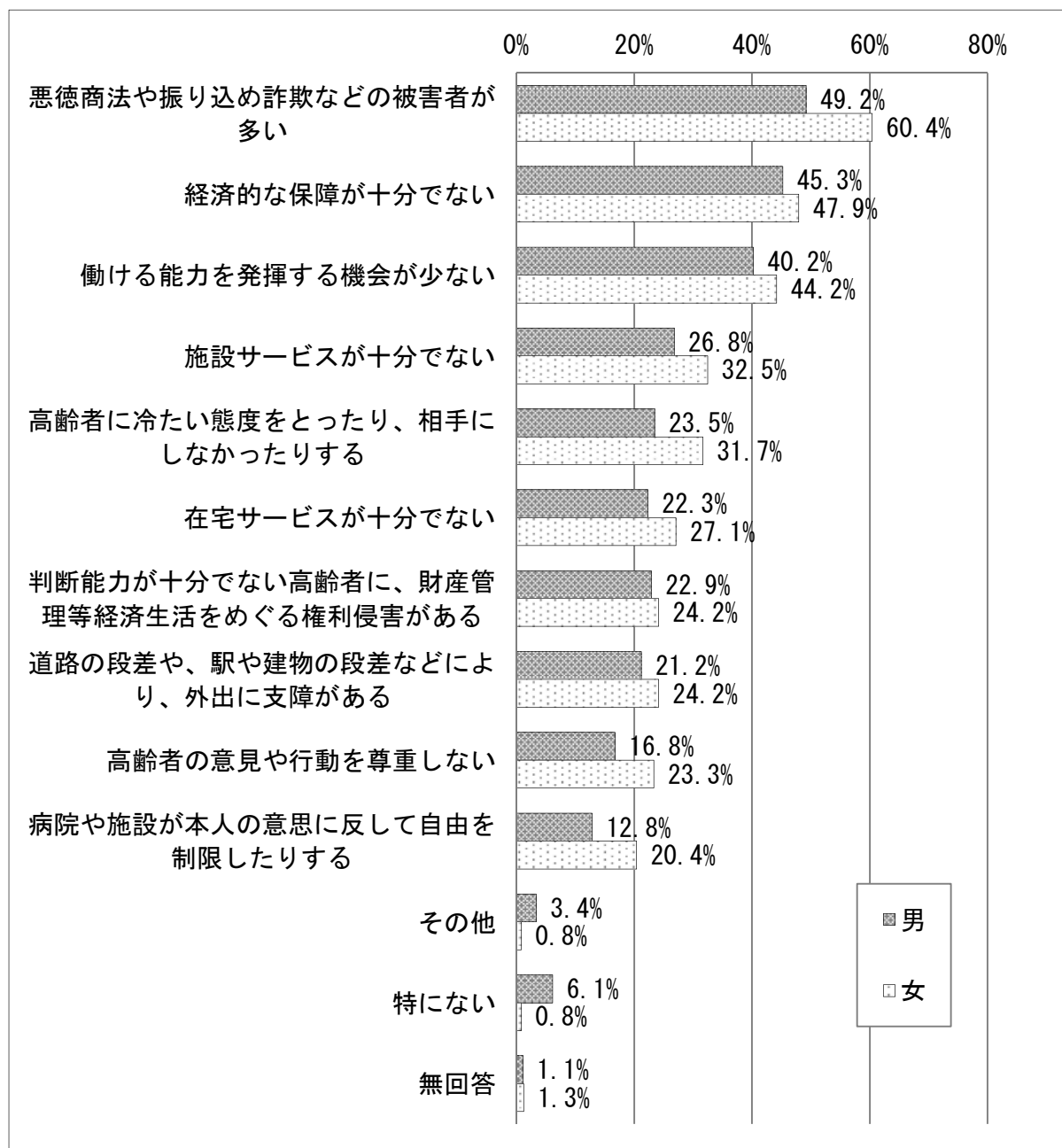
回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害が多い」、「経済的な保障が十分でない」、「働ける能力を発揮する機会が少ない」が高くなっている。

多くの項目において、女性の割合が男性より高くなっている。



【年代別】

20歳代から50歳代までは「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い」が、60歳以上では「経済的な保障が十分でない」が最も高くなっている。次いで20歳代、30歳代では「働ける能力を発揮する機会が少ない」が、40歳代、50歳代では「経済的な保障が十分でない」が、60歳以上では「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い」が高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い	54.8%	53.6%	62.2%	60.6%	50.4%
経済的な保障が十分でない	32.3%	43.5%	50.0%	50.0%	53.0%
働ける能力を発揮する機会が少ない	40.3%	46.4%	45.9%	39.4%	40.0%
施設サービスが十分でない	24.2%	30.4%	33.8%	35.1%	27.8%
高齢者に冷たい態度をとったり、相手にしなかったりする	30.6%	27.5%	25.7%	34.0%	24.3%
在宅サービスが十分でない	14.5%	24.6%	31.1%	31.9%	20.9%
判断能力が十分でない高齢者に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	37.1%	30.4%	23.0%	21.3%	14.8%
道路の段差や、駅や建物の段差などにより、外出に支障がある	21.0%	23.2%	29.7%	21.3%	21.7%
高齢者の意見や行動を尊重しない	24.2%	21.7%	18.9%	18.1%	20.9%
病院や施設が本人の意思に反して自由を制限したりする	14.5%	15.9%	16.2%	22.3%	15.7%
その他	0.0%	2.9%	2.7%	2.1%	1.7%
特にない	1.6%	2.9%	5.4%	2.1%	2.6%
無回答	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	1.7%

(注) 部分：主な評価箇所

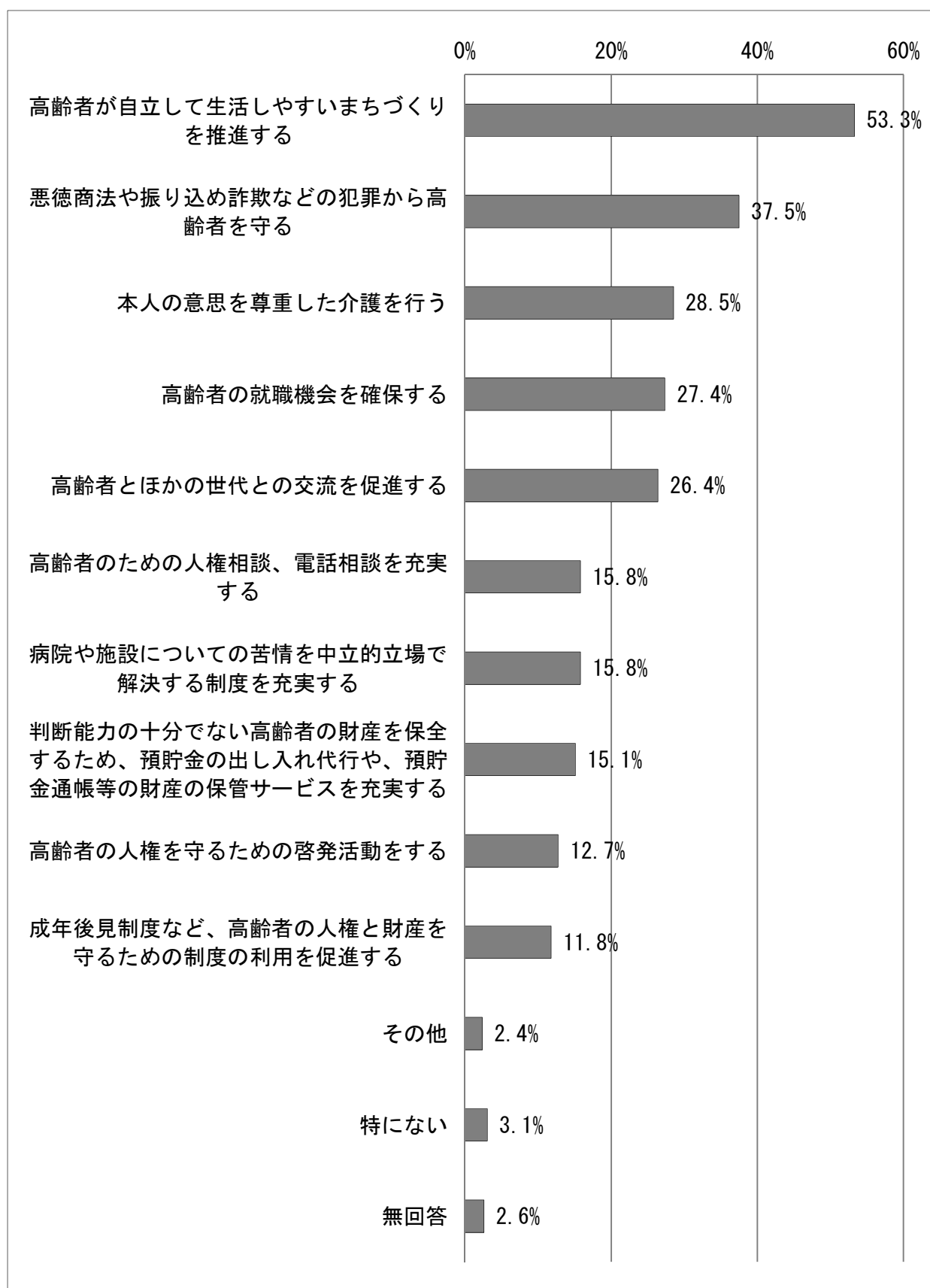
問13 あなたは、高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

高齢者の人権を守るために必要なこととして、「高齢者が自立して生活しやすいまちづくりを推進する」が53.3%で最も高く、次いで「悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る」が37.5%、「本人の意思を尊重した介護を行う」が28.5%となっている。

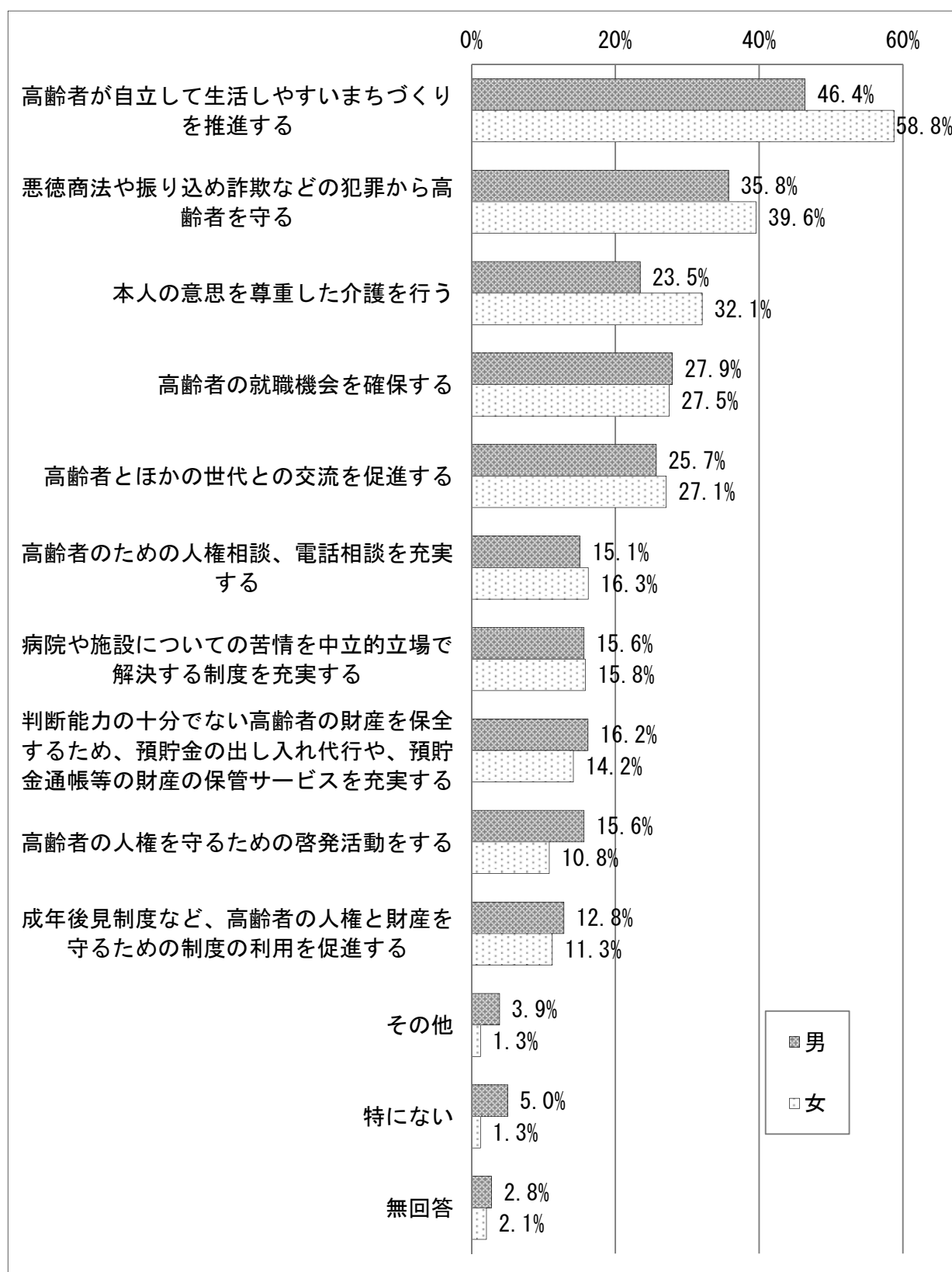
区 分	回答数	構成比
1 高齢者の人権を守るための啓発活動をする	54	12.7%
2 高齢者のための人権相談、電話相談を充実する	67	15.8%
3 高齢者が自立して生活しやすいまちづくりを推進する	226	53.3%
4 高齢者の就職機会を確保する	116	27.4%
5 高齢者とほかの世代との交流を促進する	112	26.4%
6 判断能力の十分でない高齢者の財産を保全するため、預貯金 の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サー ビスを充実する	64	15.1%
7 成年後見制度など、高齢者の人権と財産を守るための制 度の利用を促進する	50	11.8%
8 本人の意思を尊重した介護を行う	121	28.5%
9 病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制 度を充実する	67	15.8%
10 悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る	159	37.5%
11 その他	10	2.4%
12 特になし	13	3.1%
無回答	11	2.6%

回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「高齢者が自立して生活しやすいまちづくりを推進する」が最も高くなっているが、女性の割合が男性より12.4ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「高齢者が自立して生活しやすいまちづくりを推進する」が最も高く、次いで20歳代から50歳代では「悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る」が、60歳以上では「本人の意思を尊重した介護を行う」が高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
高齢者が自立して生活しやすいまちづくりを推進する	45.2%	50.7%	55.4%	53.2%	58.3%
悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る	38.7%	33.3%	45.9%	39.4%	33.9%
本人の意思を尊重した介護を行う	19.4%	27.5%	32.4%	22.3%	37.4%
高齢者の就職機会を確保する	30.6%	27.5%	36.5%	27.7%	20.0%
高齢者とほかの世代との交流を促進する	29.0%	27.5%	24.3%	27.7%	25.2%
高齢者のための人権相談、電話相談を充実する	16.1%	8.7%	14.9%	18.1%	19.1%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	17.7%	24.6%	12.2%	20.2%	7.8%
判断能力の十分でない高齢者の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	24.2%	15.9%	9.5%	14.9%	13.9%
高齢者の人権を守るための啓発活動をする	3.2%	7.2%	12.2%	16.0%	19.1%
成年後見制度など、高齢者の人権と財産を守るための制度の利用を促進する	12.9%	17.4%	13.5%	12.8%	7.0%
その他	3.2%	2.9%	4.1%	2.1%	0.9%
特にない	1.6%	5.8%	0.0%	2.1%	3.5%
無回答	1.6%	1.4%	2.7%	2.1%	3.5%

(注) 部分：主な評価箇所

5 障害のある人の人権に対する意識

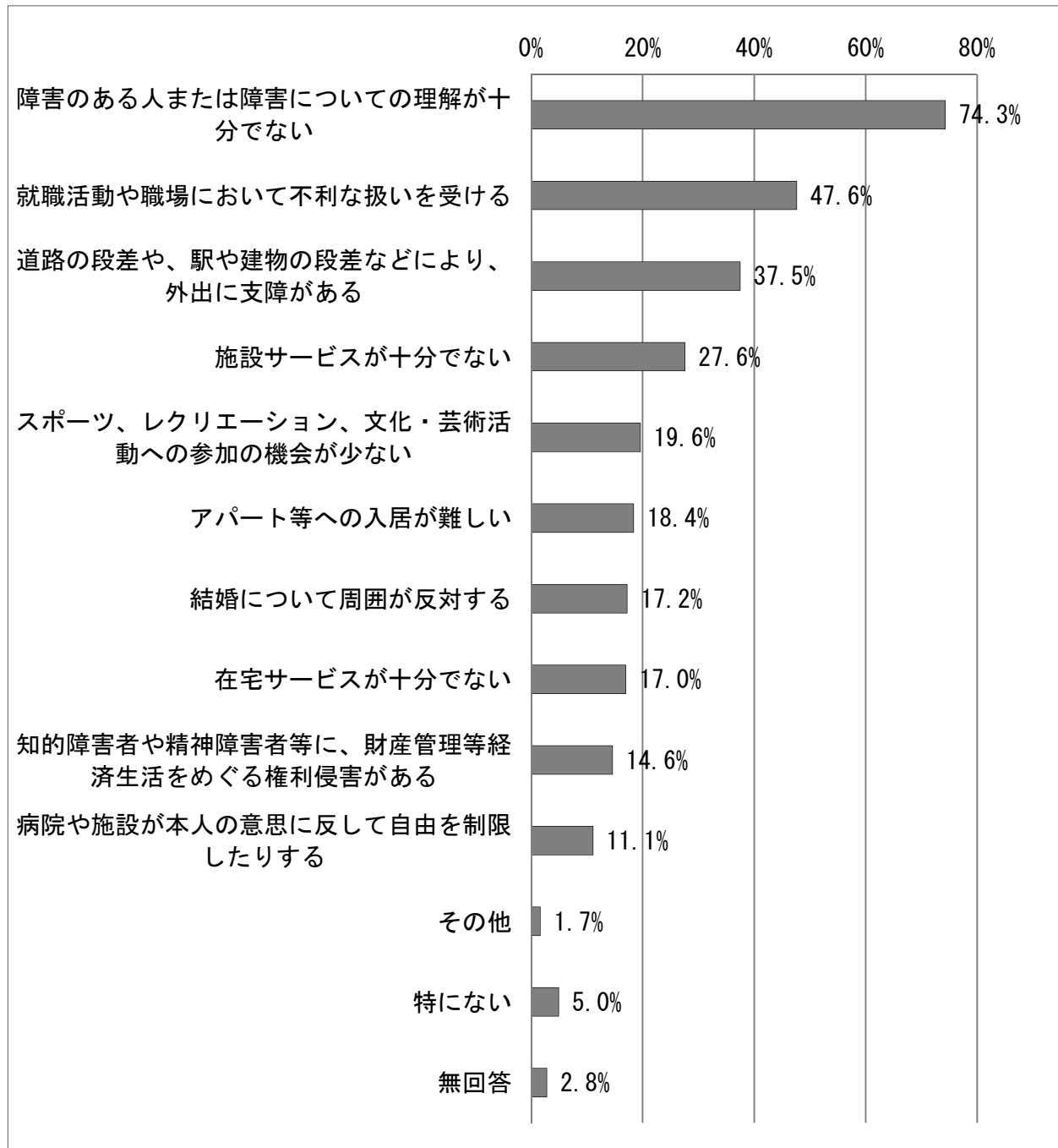
問14 あなたは、障害のある人の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

障害のある人の人権が尊重されていないと感じる状況は、「障害のある人または障害についての理解が十分でない」が74.3%で最も高く、次いで「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」が47.6%、「道路の段差や、駅や建物の段差などにより、外出に支障がある」が37.5%となっている。

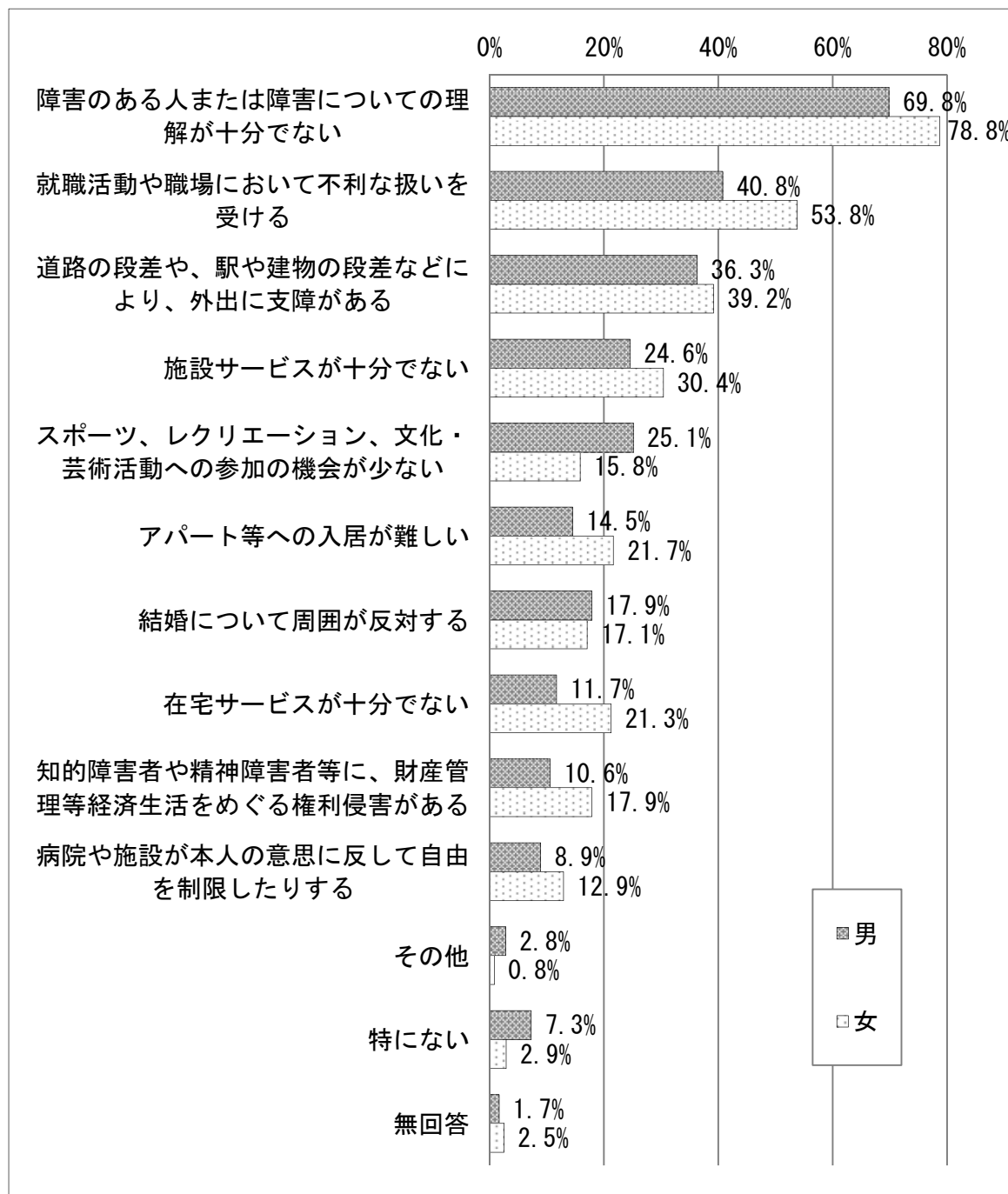
区 分	回答数	構成比
1 障害のある人または障害についての理解が十分でない	315	74.3%
2 就職活動や職場において不利な扱いを受ける	202	47.6%
3 施設サービスが十分でない	117	27.6%
4 在宅サービスが十分でない	72	17.0%
5 病院や施設が本人の意思に反して自由を制限したりする	47	11.1%
6 知的障害者や精神障害者等に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	62	14.6%
7 道路の段差や、駅や建物の段差などにより、外出に支障がある	159	37.5%
8 スポーツ、レクリエーション、文化・芸術活動への参加の機会が少ない	83	19.6%
9 結婚について周囲が反対する	73	17.2%
10 アパート等への入居が難しい	78	18.4%
11 その他	7	1.7%
12 特になし	21	5.0%
無回答	12	2.8%

回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「障害のある人または障害についての理解が十分でない」が70%前後で最も高く、次いで「就職活動や職場において不利な扱いを受ける」、「道路の段差や、駅や建物の段差などにより、外出に支障がある」となっている。



【年代別】

各年代において「障害のある人または障害についての理解が十分でない」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
障害のある人または障害についての理解が十分でない	75.8%	82.6%	82.4%	76.6%	61.7%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	46.8%	56.5%	47.3%	47.9%	45.2%
道路の段差や、駅や建物の段差などにより、外出に支障がある	37.1%	24.6%	43.2%	40.4%	40.9%
施設サービスが十分でない	16.1%	26.1%	31.1%	29.8%	32.2%
スポーツ、レクリエーション、文化・芸術活動への参加の機会が少ない	17.7%	18.8%	14.9%	25.5%	20.9%
アパート等への入居が難しい	14.5%	27.5%	20.3%	18.1%	13.9%
結婚について周囲が反対する	24.2%	30.4%	14.9%	16.0%	8.7%
在宅サービスが十分でない	8.1%	18.8%	23.0%	18.1%	16.5%
知的障害者や精神障害者等に、財産管理等経済生活をめぐる権利侵害がある	19.4%	15.9%	16.2%	13.8%	9.6%
病院や施設が本人の意思に反して自由を制限したりする	4.8%	15.9%	10.8%	10.6%	12.2%
その他	1.6%	0.0%	2.7%	1.1%	2.6%
特にない	3.2%	2.9%	2.7%	3.2%	8.7%
無回答	0.0%	0.0%	1.4%	2.1%	6.1%

(注) 部分：主な評価箇所

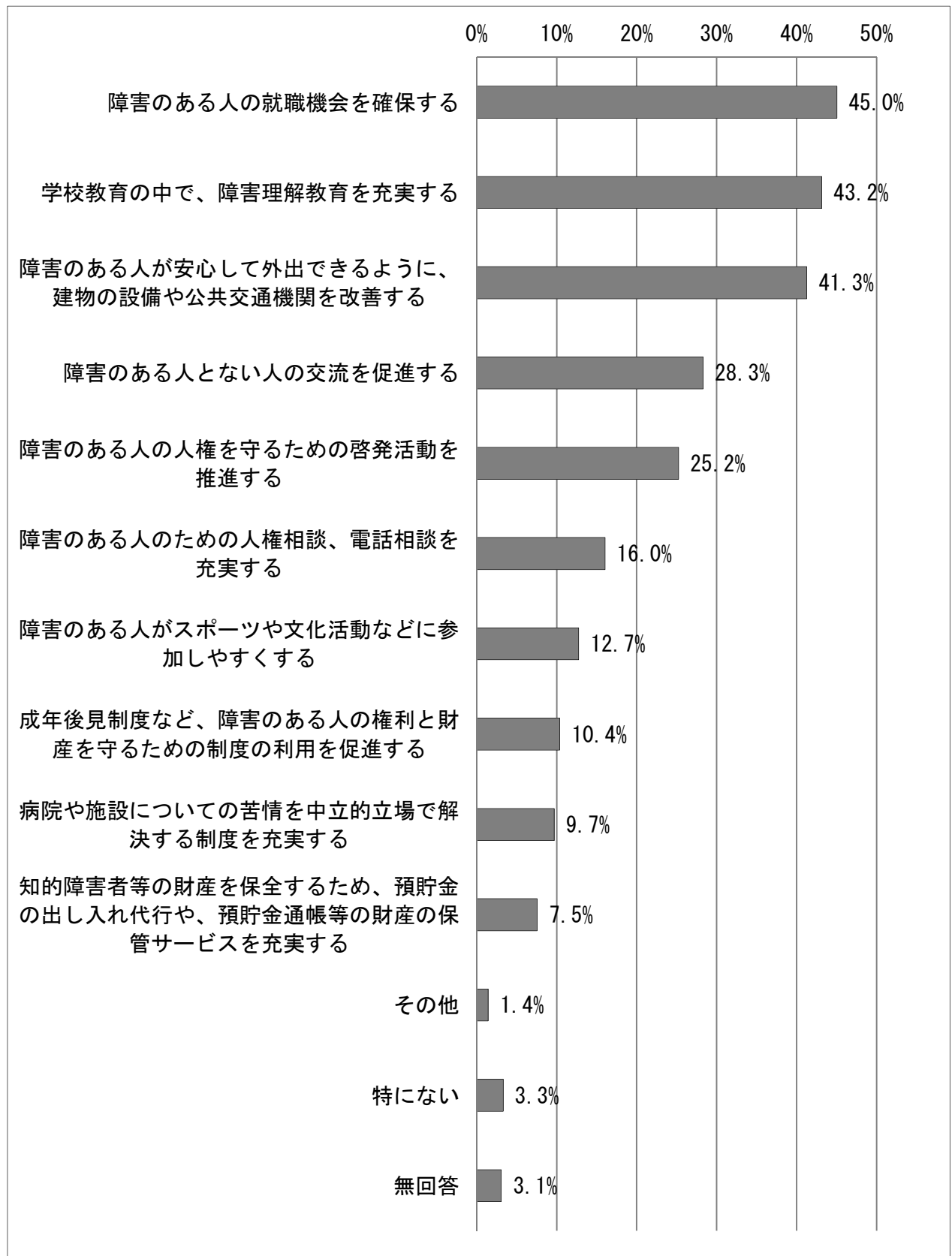
問15 あなたは、障害のある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

障害のある人の人権を守るために必要なこととして、「障害のある人の就職機会を確保する」が45.0%で最も高く、次いで「学校教育の中で、障害理解教育を充実する」が43.2%、「障害のある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する」が41.3%となっている。

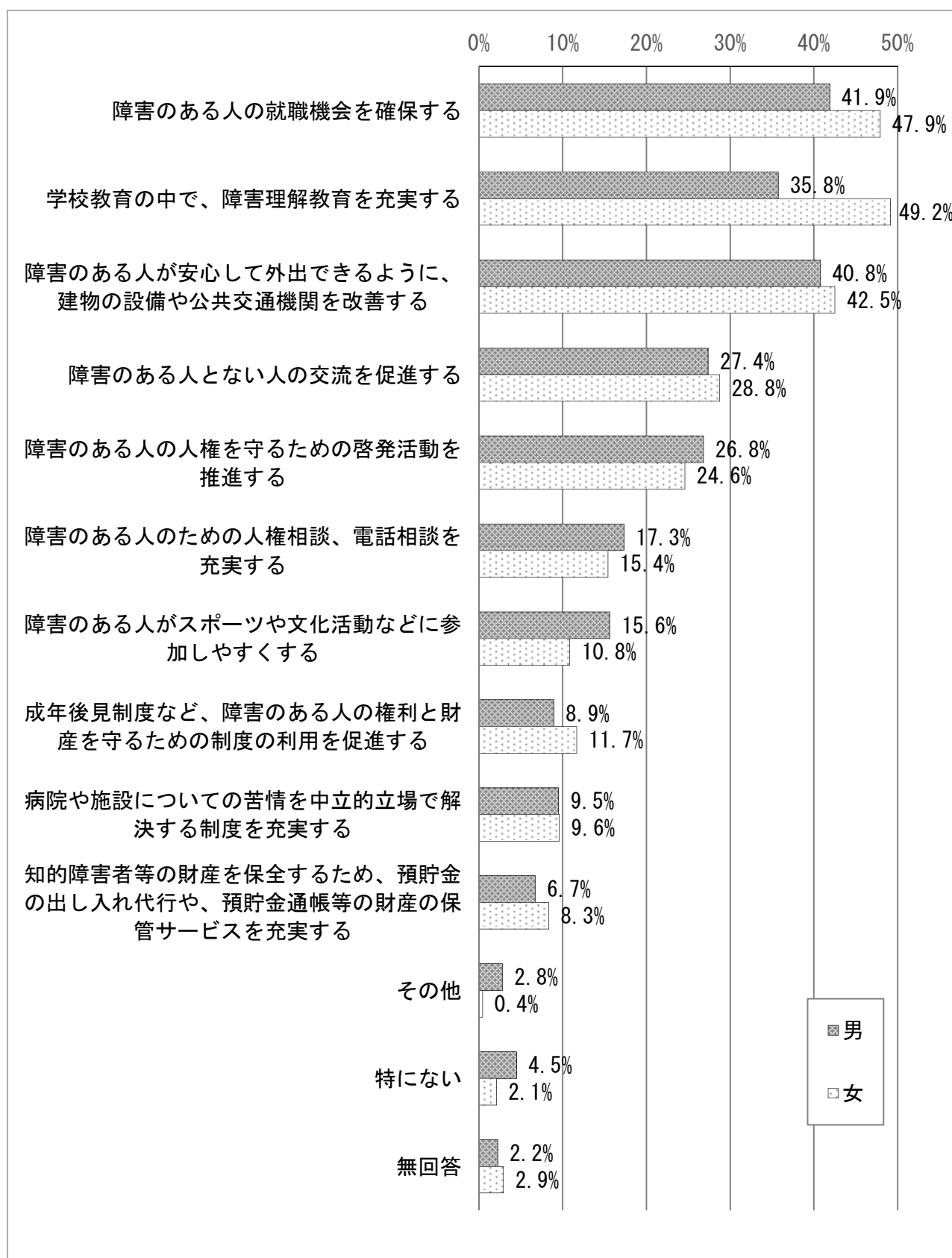
区分	回答数	構成比
1 障害のある人の人権を守るための啓発活動を推進する	107	25.2%
2 障害のある人のための人権相談、電話相談を充実する	68	16.0%
3 障害のある人の就職機会を確保する	191	45.0%
4 知的障害者等の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	32	7.5%
5 成年後見制度など、障害のある人の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	44	10.4%
6 障害のある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する	175	41.3%
7 障害のある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	54	12.7%
8 障害のある人となない人の交流を促進する	120	28.3%
9 学校教育の中で、障害理解教育を充実する	183	43.2%
10 病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	41	9.7%
11 その他	6	1.4%
12 特になし	14	3.3%
無回答	13	3.1%

回答者数 424 人



【性別】

男性では「障害のある人の就職機会を確保する」が、女性では「学校教育の中で、障害理解教育を充実する」が最も高くなっている。



【年代別】

20歳代、30歳代では「障害のある人の就業機会を確保する」が、40歳代、50歳代では「学校教育の中で、障害理解教育を充実する」が、60歳以上は「障害のある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
障害のある人の就職機会を確保する	50.0%	55.1%	48.6%	38.3%	40.0%
学校教育の中で、障害理解教育を充実する	38.7%	52.2%	58.1%	46.8%	30.4%
障害のある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する	37.1%	33.3%	47.3%	45.7%	43.5%
障害のある人となない人の交流を促進する	27.4%	37.7%	31.1%	26.6%	22.6%
障害のある人の人権を守るための啓発活動を推進する	12.9%	17.4%	20.3%	31.9%	34.8%
障害のある人のための人権相談、電話相談を充実する	12.9%	8.7%	14.9%	19.1%	20.9%
障害のある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	12.9%	8.7%	12.2%	16.0%	13.0%
成年後見制度など、障害のある人の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	8.1%	14.5%	8.1%	8.5%	12.2%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	14.5%	13.0%	10.8%	8.5%	6.1%
知的障害者等の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	11.3%	5.8%	1.4%	11.7%	7.0%
特にない	1.6%	1.4%	0.0%	2.1%	7.0%
その他	0.0%	0.0%	2.7%	2.1%	1.7%
無回答	0.0%	1.4%	1.4%	2.1%	5.2%

(注) 部分：主な評価箇所

6 同和問題（部落差別）に対する意識

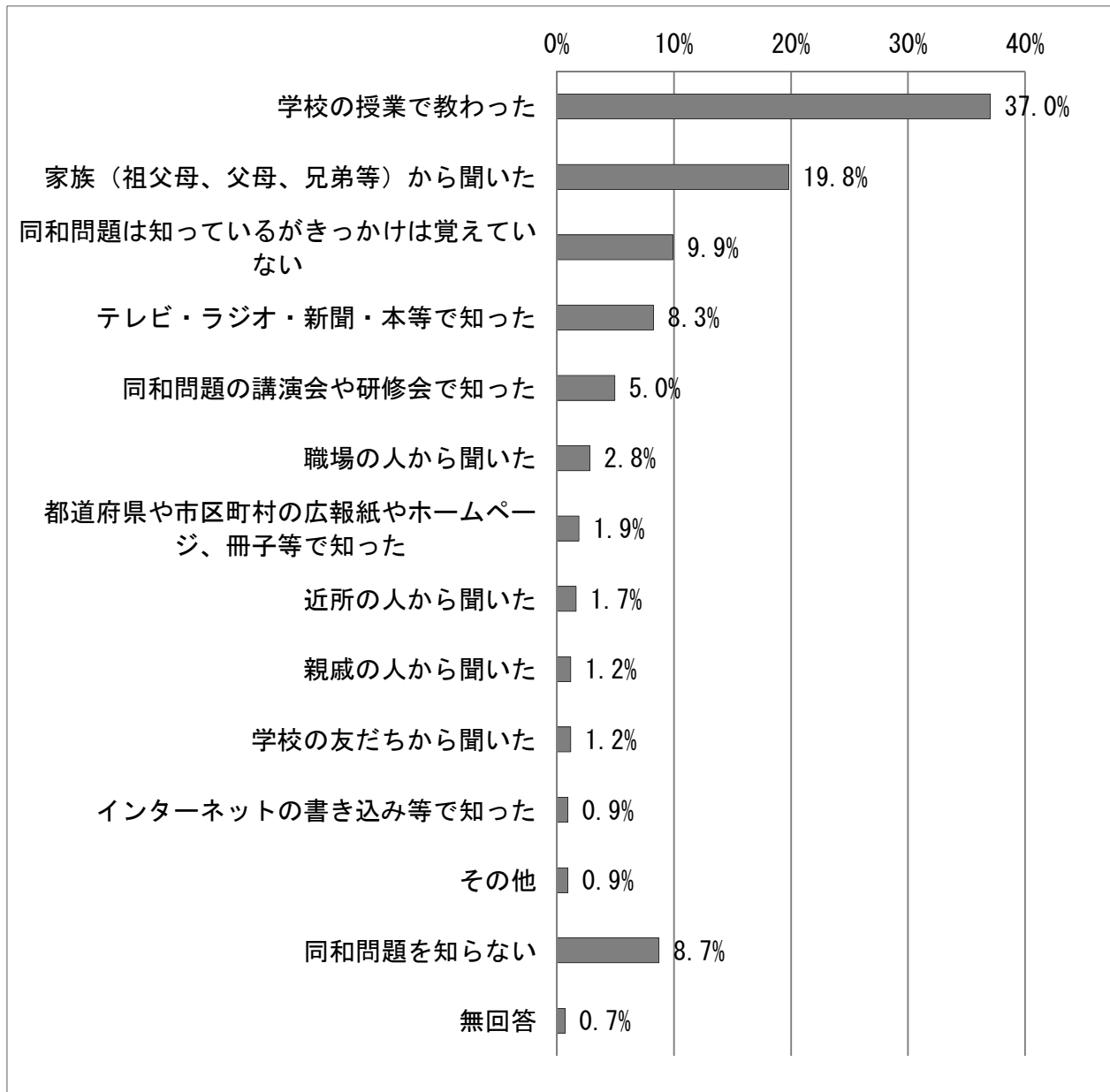
問16 あなたは、同和問題（部落差別）について、初めて知ったきっかけは、何からですか。（○は1つ）

【全体】

同和問題（部落差別）について、初めて知ったきっかけは、「学校の授業で教わった」が37.0%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」が19.8%、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」が9.9%となっている。

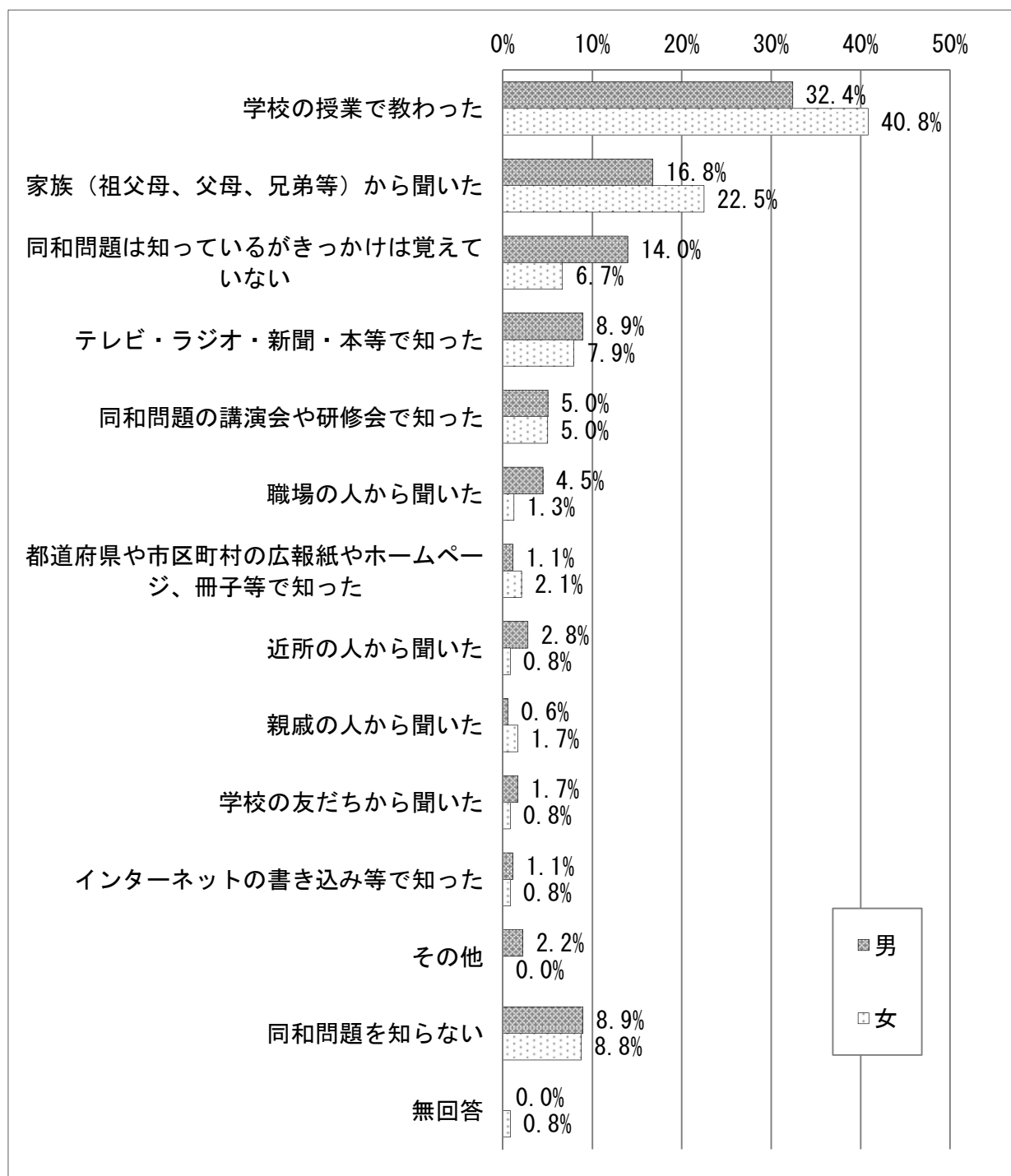
区 分	回答数	構成比
1 家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた	84	19.8%
2 親戚の人から聞いた	5	1.2%
3 近所の人から聞いた	7	1.7%
4 職場の人から聞いた	12	2.8%
5 学校の友だちから聞いた	5	1.2%
6 学校の授業で教わった	157	37.0%
7 テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	35	8.3%
8 同和問題の講演会や研修会で知った	21	5.0%
9 都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等で知った	8	1.9%
10 インターネットの書き込み等で知った	4	0.9%
11 同和問題は知っているがきっかけは覚えていない	42	9.9%
12 その他	4	0.9%
13 同和問題を知らない	37	8.7%
無回答	3	0.7%

回答者数 424 人



【性別】

男女ともに「学校の授業で教わった」が最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」となっているが、いずれも女性の割合が男性より高くなっている。



【年代別】

20歳代から50歳代では「学校の授業で教わった」が、60歳以上では「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
学校の授業で教わった	50.0%	69.6%	50.0%	33.0%	6.1%
家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた	14.5%	10.1%	12.2%	22.3%	32.2%
同和問題は知っているがきっかけは覚えていない	1.6%	4.3%	6.8%	13.8%	17.4%
テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	9.7%	1.4%	12.2%	5.3%	12.2%
同和問題の講演会や研修会で知った	0.0%	1.4%	2.7%	10.6%	6.1%
職場の人から聞いた	3.2%	0.0%	2.7%	1.1%	5.2%
都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等で知った	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	4.3%
近所の人から聞いた	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	5.2%
親戚の人から聞いた	0.0%	1.4%	2.7%	0.0%	1.7%
学校の友だちから聞いた	0.0%	1.4%	0.0%	1.1%	2.6%
インターネットの書き込み等で知った	1.6%	1.4%	0.0%	0.0%	1.7%
その他	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	1.7%
同和問題を知らない	19.4%	8.7%	8.1%	7.4%	3.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%

(注) 部分：主な評価箇所

（問16で、「同和問題を知らない」以外を回答した人に対して）

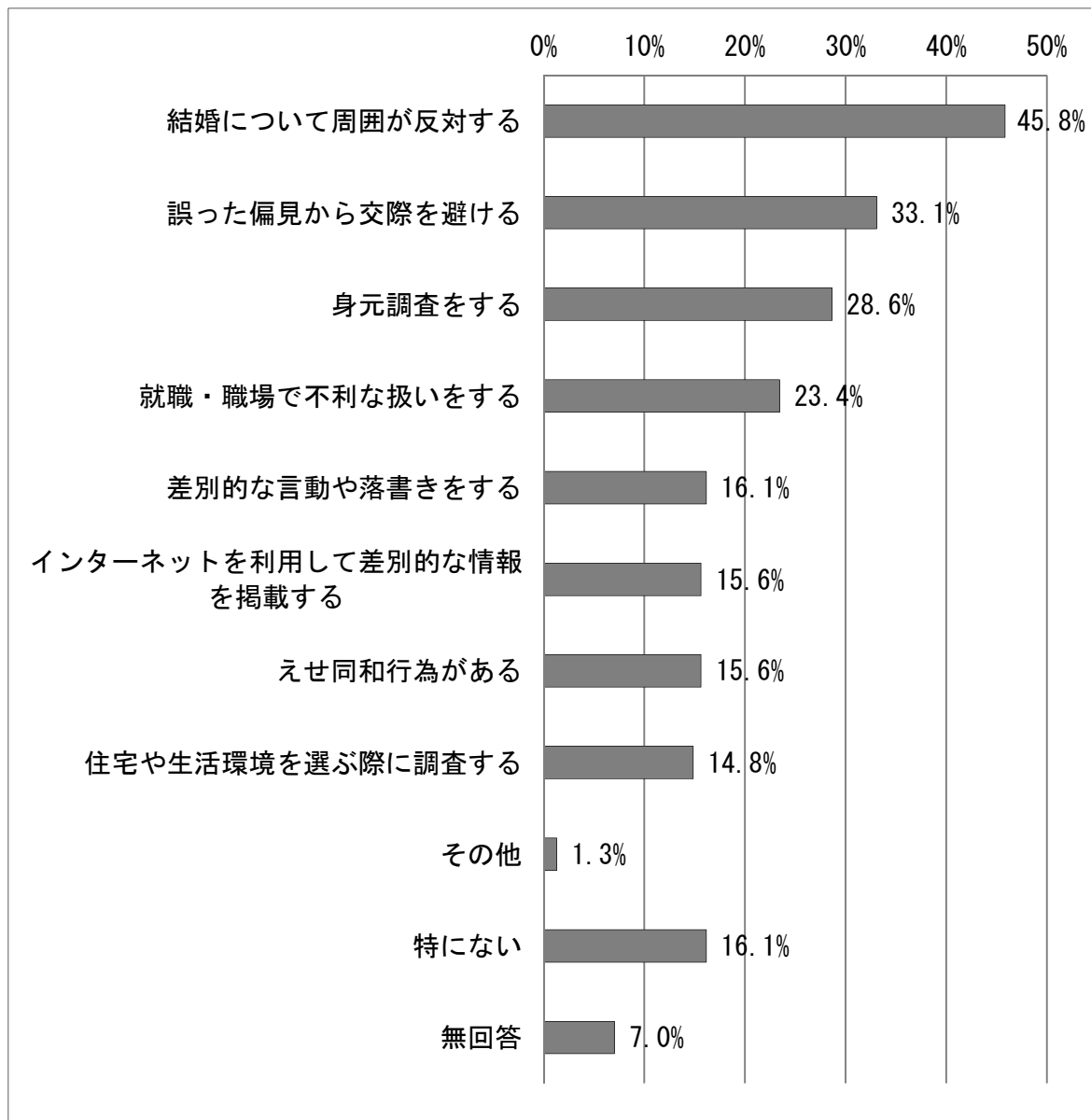
問16-1 あなたは、同和問題（部落差別）に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。（該当するものすべてに○）

【全体】

同和問題（部落差別）を知っていると回答した384人に対し、現在起きている問題を聞いたところ、「結婚について周囲が反対する」が45.8%で最も高く、次いで「誤った偏見から交際を避ける」が33.1%、「身元調査をする」が28.6%、「就職・職場で不利な扱いをする」が23.4%となっている。

区 分	回答数	構成比
1 結婚について周囲が反対する	176	45.8%
2 就職・職場で不利な扱いをする	90	23.4%
3 身元調査をする	110	28.6%
4 住宅や生活環境を選ぶ際に調査する	57	14.8%
5 差別的な言動や落書きをする	62	16.1%
6 インターネットを利用して差別的な情報を掲載する	60	15.6%
7 誤った偏見から交際を避ける	127	33.1%
8 えせ同和行為がある	60	15.6%
9 その他	5	1.3%
10 特にない	62	16.1%
無回答	27	7.0%

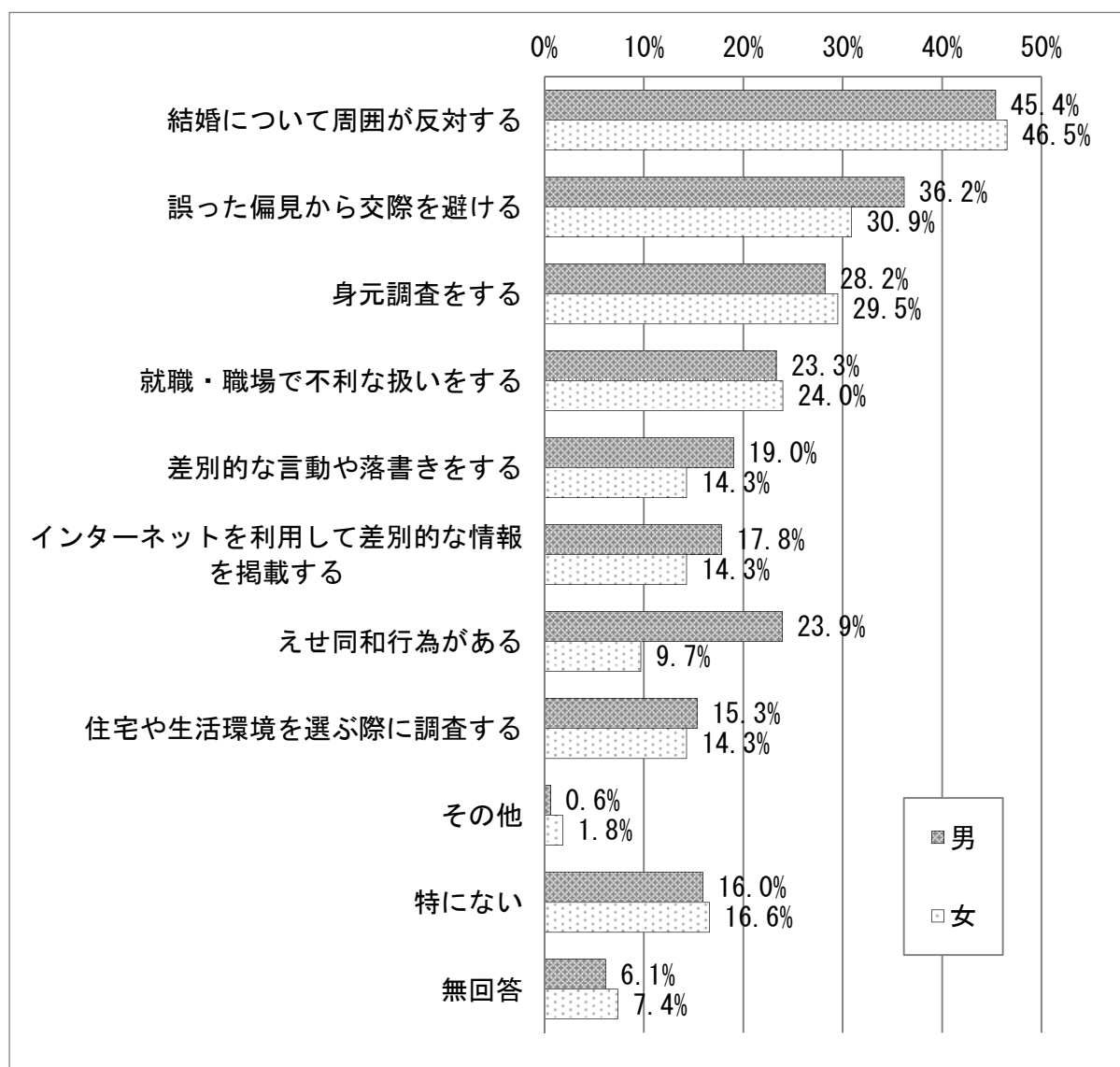
回答者数 384人



【性別】

男女ともに「結婚について周囲が反対する」が最も高くなっている。

「えせ同和行為がある」では男性の割合が女性より14.2ポイント高くなっている。



【年代別】

各年代において「結婚について周囲が反対する」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
結婚について周囲が反対する	36.0%	52.4%	50.0%	50.6%	39.6%
誤った偏見から交際を避ける	28.0%	38.1%	35.3%	34.1%	28.8%
身元調査をする	28.0%	28.6%	27.9%	36.5%	22.5%
就職・職場で不利な扱いをする	30.0%	31.7%	23.5%	20.0%	18.9%
差別的な言動や落書きをする	26.0%	14.3%	19.1%	20.0%	8.1%
インターネットを利用して差別的な情報を掲載する	22.0%	22.2%	16.2%	18.8%	7.2%
えせ同和行為がある	16.0%	19.0%	10.3%	21.2%	13.5%
住宅や生活環境を選ぶ際に調査する	12.0%	19.0%	19.1%	11.8%	13.5%
その他	0.0%	1.6%	1.5%	0.0%	2.7%
特にない	14.0%	12.7%	11.8%	10.6%	27.0%
無回答	6.0%	7.9%	7.4%	8.2%	6.3%

(注) 部分：主な評価箇所

第2章 調査結果の分析

（問１６で、「同和問題を知らない」以外を回答した人に対して）

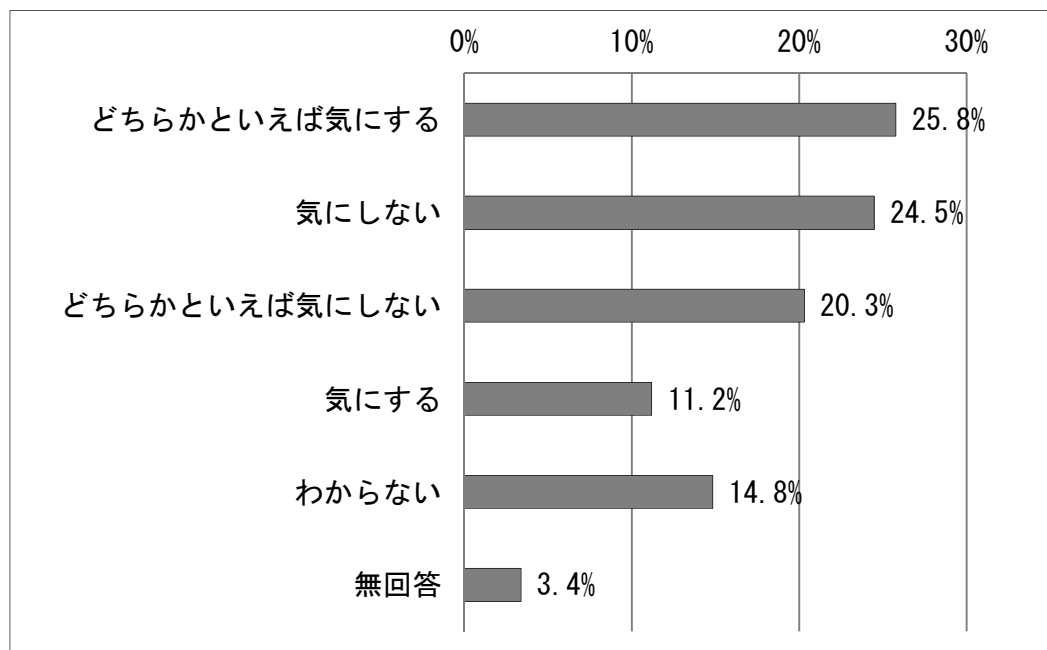
問１６－２ あなたは、住宅の購入や生活環境を選ぶ際に、仮にその場所が同和地区であった場合、気にしますか。（○は１つ）

【全体】

同和问题（部落差別）を知っていると回答した３８４人に対し、住宅の購入や生活環境を選ぶ際に、仮にその場所が同和地区であった場合の対応を聞いたところ、「どちらかといえば気にする」が２５．８％で最も高く、次いで「気にしない」が２４．５％、「どちらかといえば気にしない」が２０．３％となっている。

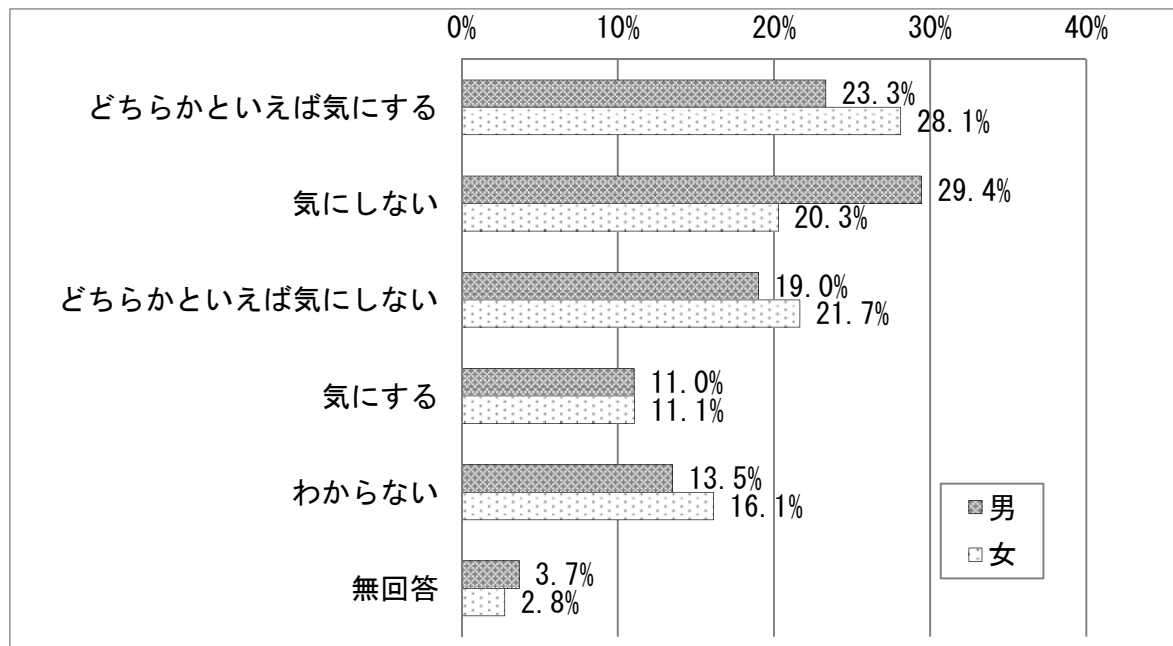
区 分	回答数	構成比
１ 気にしない	94	24.5%
２ どちらかといえば気にしない	78	20.3%
３ どちらかといえば気にする	99	25.8%
４ 気にする	43	11.2%
５ わからない	57	14.8%
無回答	13	3.4%

回答者数 384 人



【性別】

男性では「気にしない」、女性では「どちらかといえば気にする」が最も高くなっている。



【年代別】

20歳代、30歳代、50歳代では「気にしない」が、40歳代では「どちらかといえば気にしない」が、60歳以上では「どちらかといえば気にする」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
どちらかといえば気にする	28.0%	20.6%	23.5%	28.2%	27.0%
気にしない	30.0%	28.6%	14.7%	32.9%	19.8%
どちらかといえば気にしない	14.0%	23.8%	30.9%	15.3%	19.8%
気にする	14.0%	9.5%	16.2%	10.6%	8.1%
わからない	14.0%	14.3%	11.8%	11.8%	18.9%
無回答	0.0%	3.2%	2.9%	1.2%	6.3%

(注) 部分：主な評価箇所

第2章 調査結果の分析

（問16で、「同和問題を知らない」以外を回答した人に対して）

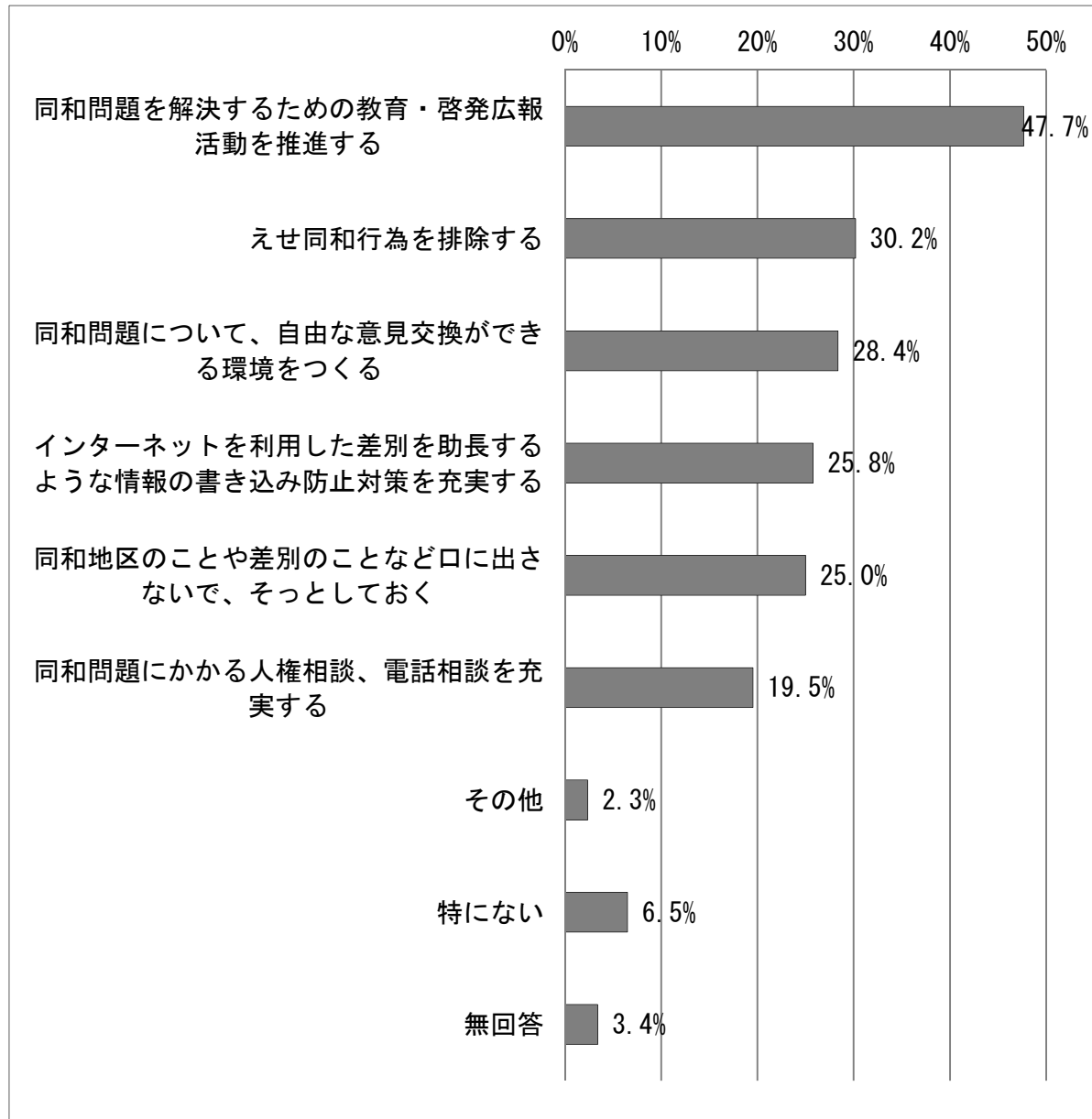
問16-3 あなたは、同和問題（部落差別）を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

【全体】

同和問題（部落差別）を知っていると回答した384人に対し、同和問題（部落差別）の解決のために必要なことを聞いたところ、「同和問題を解決するための教育・啓発広報活動を推進する」が47.7%で最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」が30.2%、「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」が28.4%となっている。

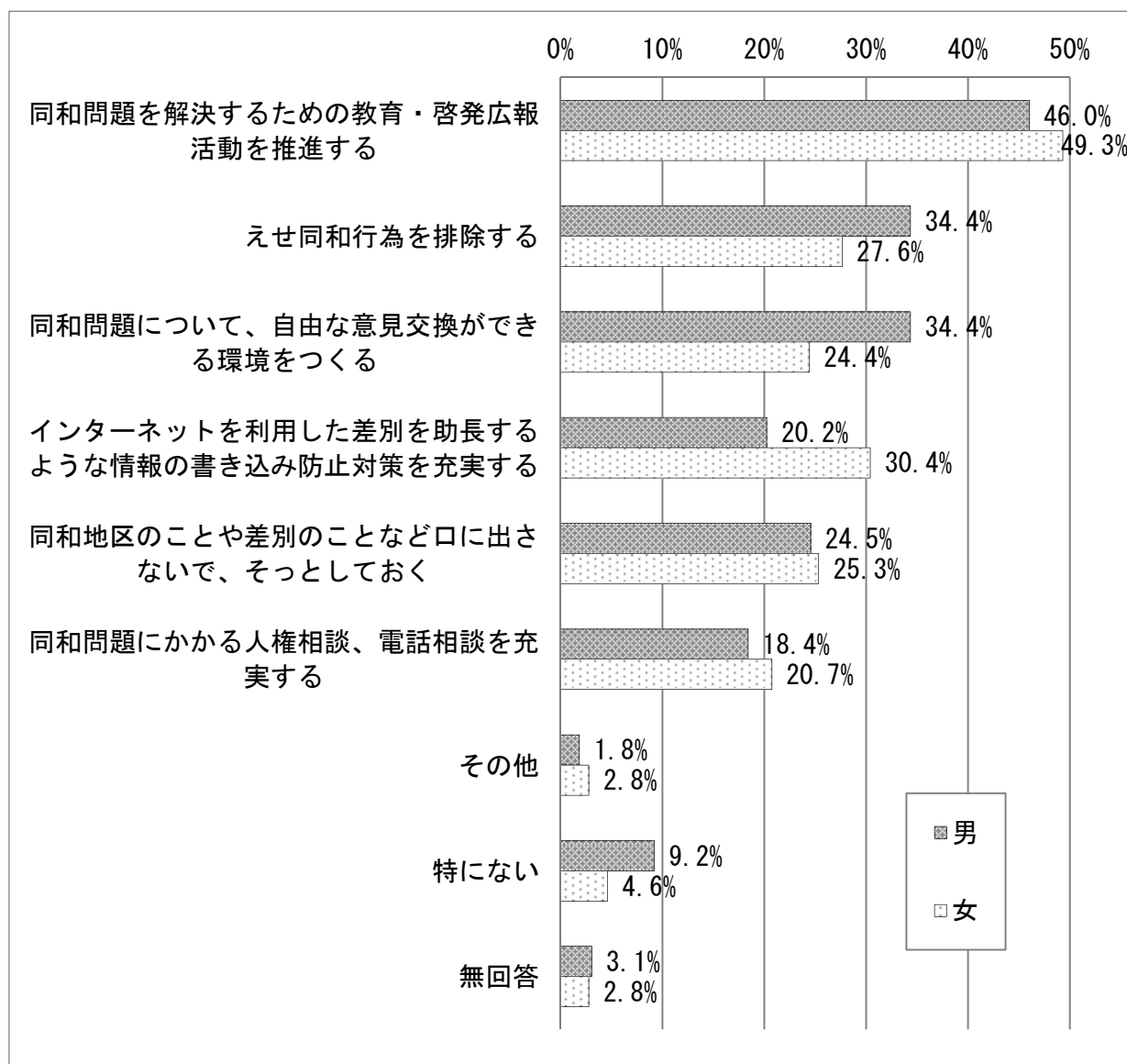
区 分	回答数	構成比
1 同和問題を解決するための教育・啓発広報活動を推進する	183	47.7%
2 同和問題にかかる人権相談、電話相談を充実する	75	19.5%
3 えせ同和行為を排除する	116	30.2%
4 同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	109	28.4%
5 インターネットを利用した差別を助長するような情報の書き込み防止対策を充実する	99	25.8%
6 同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく	96	25.0%
7 その他	9	2.3%
8 特にない	25	6.5%
無回答	13	3.4%

回答者数 384人



【性別】

男女ともに「同和問題を解決するための教育・啓発広報活動を推進する」の割合が最も高く、次いで男性では「えせ同和行為を排除する」と「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」、女性では「インターネットを利用した差別を助長するような情報の書き込み防止対策を充実する」となっている。



【年代別】

各年代において「同和問題を解決するための教育・啓発広報活動を推進する」が最も高くなっている。

選択項目	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
同和問題を解決するための教育・啓発広報活動を推進する	56.0%	61.9%	51.5%	45.9%	35.1%
えせ同和行為を排除する	36.0%	33.3%	26.5%	40.0%	21.6%
同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	20.0%	27.0%	27.9%	29.4%	33.3%
インターネットを利用した差別を助長するような情報の書き込み防止対策を充実する	30.0%	27.0%	39.7%	27.1%	15.3%
同和地区のことや差別のことなど口に出さ ないで、そっとしておく	32.0%	22.2%	27.9%	24.7%	22.5%
同和問題にかかる人権相談、電話相談を充実 する	10.0%	11.1%	20.6%	27.1%	22.5%
その他	0.0%	1.6%	5.9%	2.4%	1.8%
特にない	6.0%	4.8%	0.0%	3.5%	14.4%
無回答	2.0%	1.6%	1.5%	2.4%	5.4%

(注) 部分：主な評価箇所

7 外国人の人権に対する意識

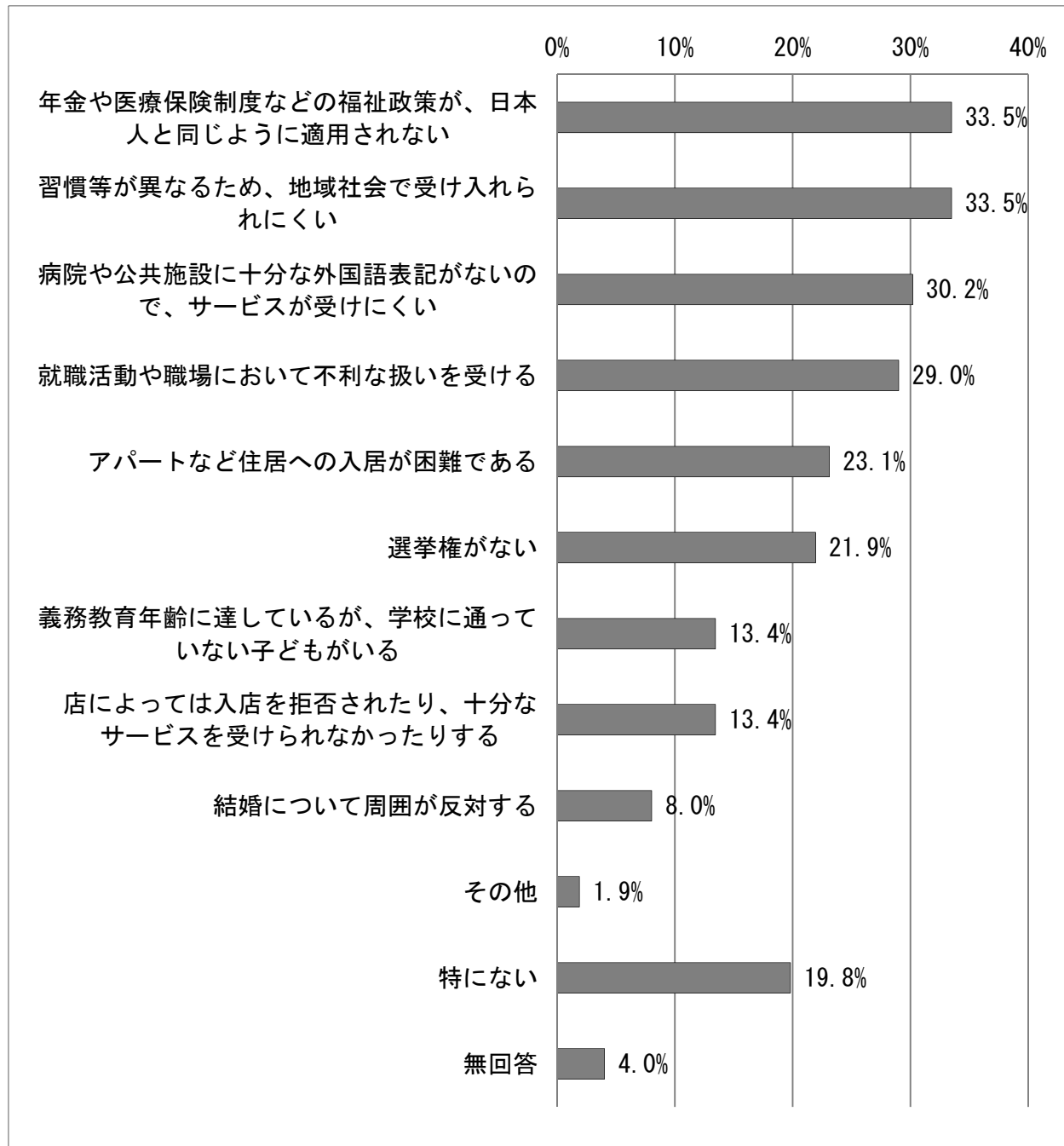
問17 あなたは、日本に住む外国人の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような状況に対してですか。（該当するものすべてに○）

【全体】

外国人の人権が尊重されていないと感じる状況は、「年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない」と「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」が33.5%で最も高く、次いで「病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい」が30.2%となっている。

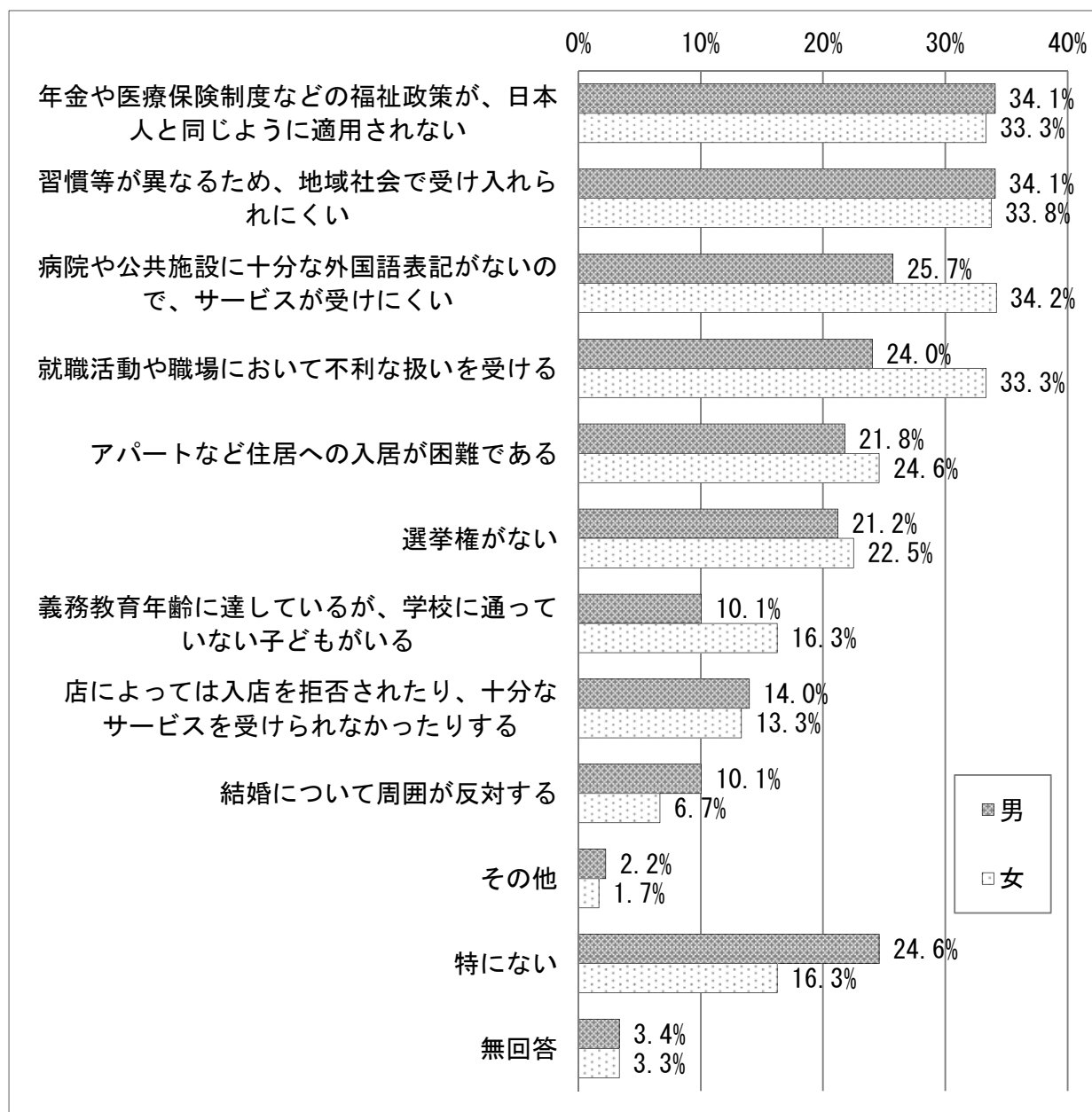
区 分	回答数	構成比
1 就職活動や職場において不利な扱いを受ける	123	29.0%
2 年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない	142	33.5%
3 選挙権がない	93	21.9%
4 アパートなど住居への入居が困難である	98	23.1%
5 義務教育年齢に達しているが、学校に通っていない子どもがいる	57	13.4%
6 習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい	142	33.5%
7 結婚について周囲が反対する	34	8.0%
8 病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい	128	30.2%
9 店によっては入店を拒否されたり、十分なサービスを受けられなかったりする	57	13.4%
10 その他	8	1.9%
11 特にない	84	19.8%
無回答	17	4.0%

回答者数 424 人



【性別】

男性では「年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない」と「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」が34.1%、女性では「病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい」が34.2%で最も高くなっている。



【年代別】

20歳代では「年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない」と「病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい」、30歳代では「病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい」、40歳代では「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい」、50歳代では「年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない」、60歳以上では「特にない」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
年金や医療保険制度などの福祉政策が、日本人と同じように適用されない	35.5%	37.7%	31.1%	36.2%	29.6%
習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくい	33.9%	37.7%	39.2%	33.0%	29.6%
病院や公共施設に十分な外国語表記がないので、サービスが受けにくい	35.5%	39.1%	36.5%	26.6%	22.6%
就職活動や職場において不利な扱いを受ける	30.6%	31.9%	36.5%	31.9%	20.0%
アパートなど住居への入居が困難である	11.3%	33.3%	27.0%	27.7%	17.4%
選挙権がない	27.4%	18.8%	28.4%	21.3%	17.4%
義務教育年齢に達しているが、学校に通っていない子どもがいる	16.1%	23.2%	16.2%	14.9%	4.3%
店によっては入店を拒否されたり、十分なサービスを受けられなかったりする	22.6%	24.6%	9.5%	12.8%	6.1%
結婚について周囲が反対する	8.1%	15.9%	10.8%	5.3%	4.3%
その他	0.0%	2.9%	2.7%	2.1%	1.7%
特にない	12.9%	14.5%	9.5%	16.0%	36.5%
無回答	1.6%	0.0%	2.7%	4.3%	6.1%

(注) 部分：主な評価箇所

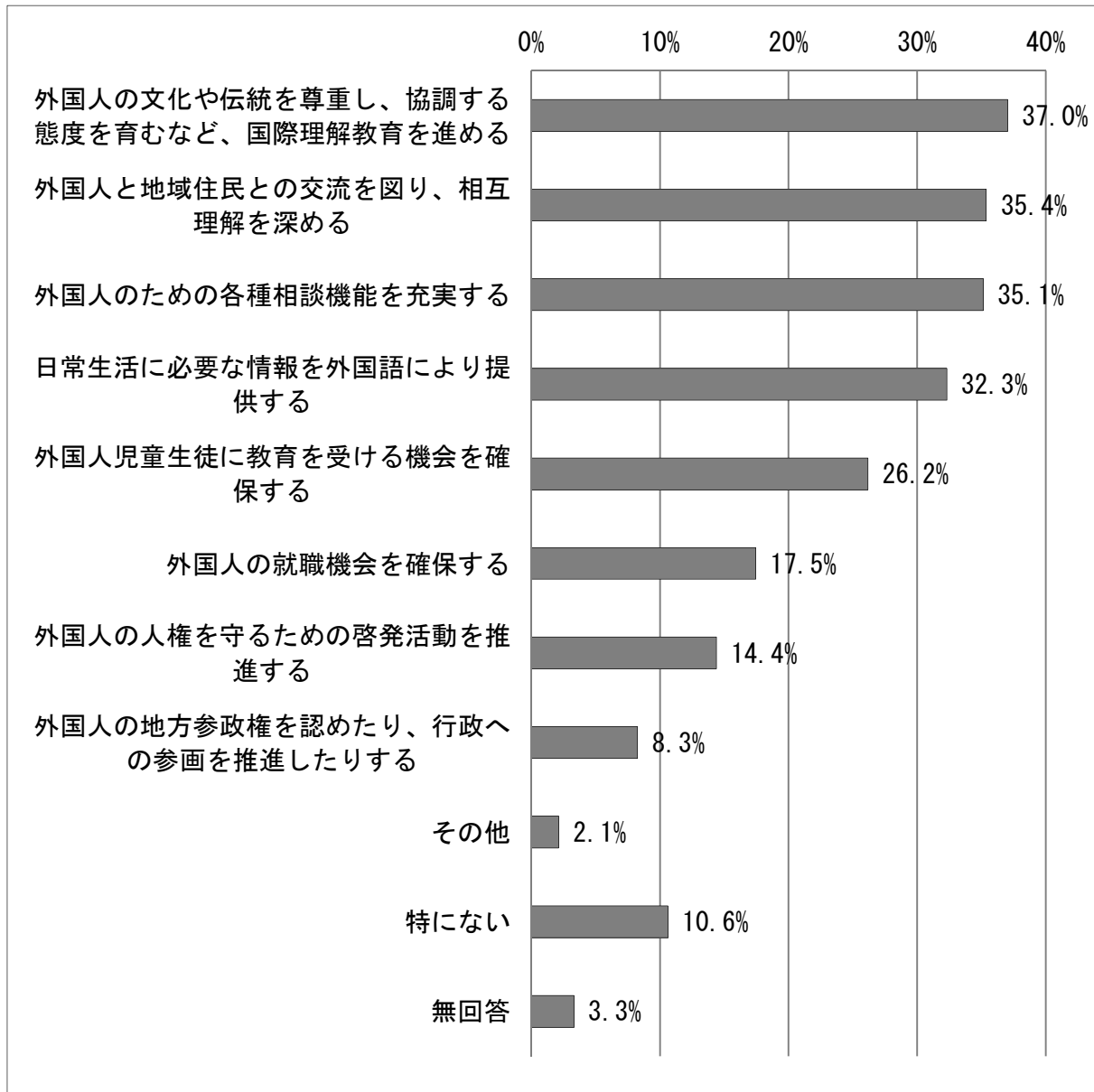
問18 あなたは、外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

外国人の人権を守るために必要なこととして、「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」が37.0%で最も高く、次いで「外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める」が35.4%、「外国人のための各種相談機能を充実する」が35.1%となっている。

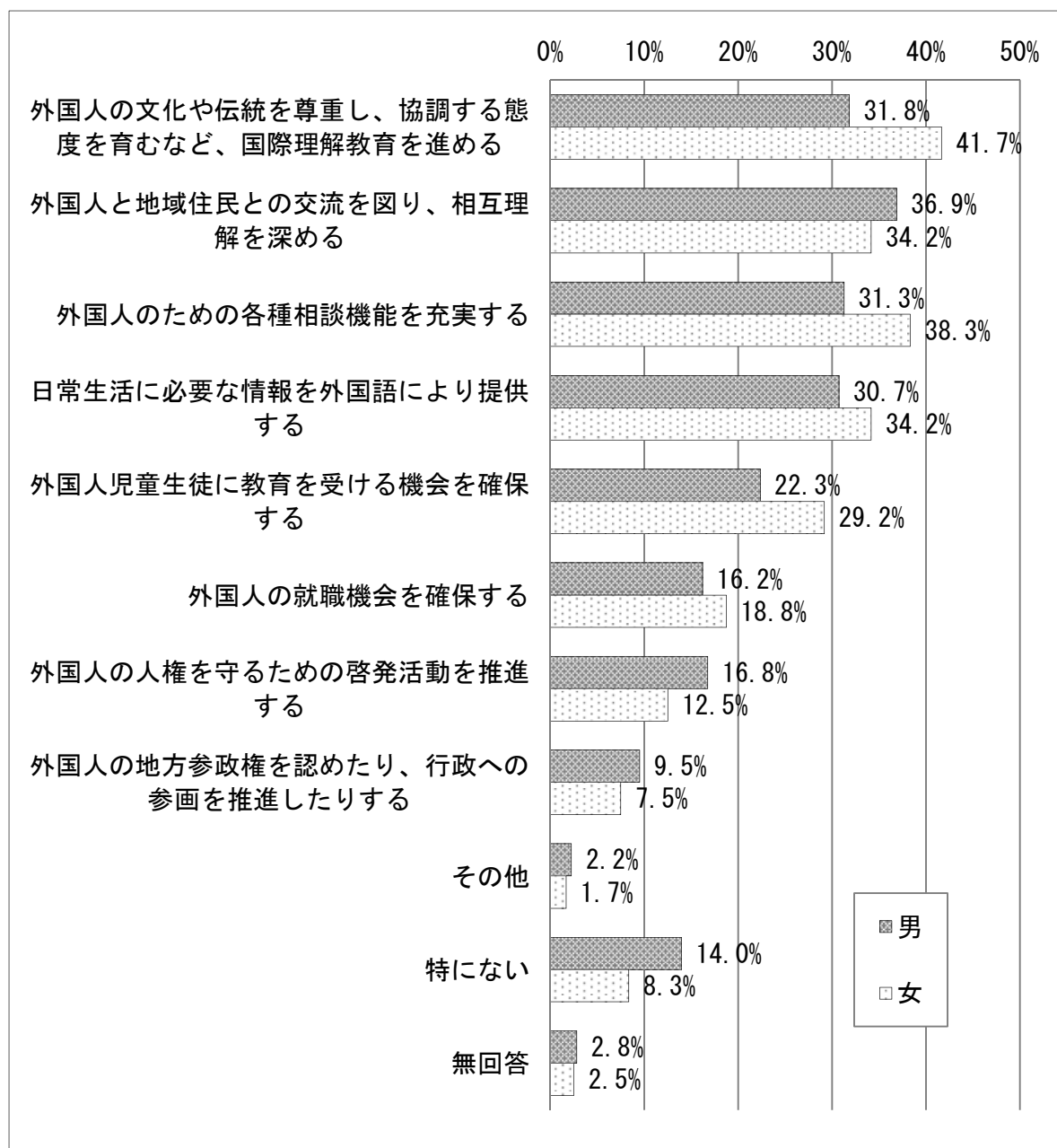
区 分		回答数	構成比
1	外国人の人権を守るための啓発活動を推進する	61	14.4%
2	外国人のための各種相談機能を充実する	149	35.1%
3	外国人の就職機会を確保する	74	17.5%
4	外国人の地方参政権を認めたり、行政への参画を推進したりする	35	8.3%
5	外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する	111	26.2%
6	日常生活に必要な情報を外国語により提供する	137	32.3%
7	外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める	157	37.0%
8	外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める	150	35.4%
9	その他	9	2.1%
10	特にない	45	10.6%
	無回答	14	3.3%

回答者数 424 人



【性別】

男性では「外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める」が36.9%、女性では「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」が41.7%で最も高くなっている。



【年代別】

20歳代では「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」、30歳代では「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」、40歳代と50歳代では「外国人のための各種相談機能を充実する」、60歳以上では「外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める」が最も高くなっている。

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める	38.7%	47.8%	35.1%	39.4%	31.3%
外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める	38.7%	39.1%	28.4%	33.0%	39.1%
外国人のための各種相談機能を充実する	27.4%	26.1%	41.9%	43.6%	33.9%
日常生活に必要な情報を外国語により提供する	40.3%	34.8%	35.1%	35.1%	23.5%
外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する	27.4%	33.3%	27.0%	26.6%	20.0%
外国人の就職機会を確保する	19.4%	15.9%	23.0%	13.8%	17.4%
外国人の人権を守るための啓発活動を推進する	14.5%	10.1%	12.2%	18.1%	16.5%
外国人の地方参政権を認めたり、行政への参画を推進したりする	6.5%	11.6%	8.1%	9.6%	6.1%
その他	0.0%	4.3%	4.1%	1.1%	1.7%
特にない	6.5%	8.7%	4.1%	8.5%	19.1%
無回答	0.0%	0.0%	2.7%	2.1%	6.1%

(注) 部分：主な評価箇所

比企郡市 人権に関する意識調査報告書

平成27年3月

編集・発行 比企郡市同和対策協議会

(事務局) 東松山市地域生活部人権推進課

〒355-8601 東松山市松葉町 1-1-58

TEL 0493-21-1416(直通)

FAX 0493-23-2236